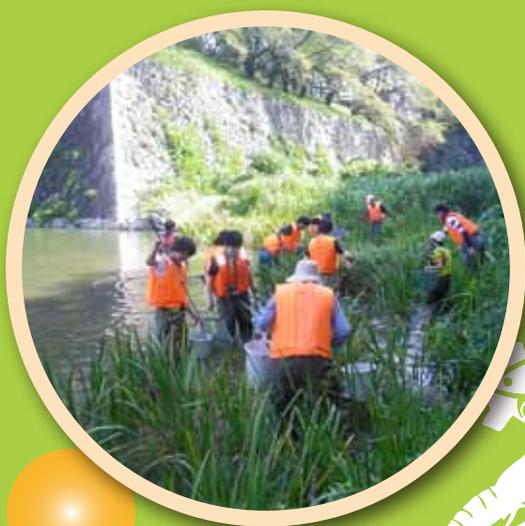


平成27年度

なごや生物多様性保全活動協議会
活動報告書



平成28年3月

なごや生物多様性保全活動協議会

目 次

はじめに 1

なごや生物多様性保全活動協議会について 3

動物調査と保全対策部会 7

水生植物部会 11

水辺の生きもの部会 13

生物情報モニタリングデータベース部会 17

オオキンケイギク対策部会 19

【広報部会】
なごや生きもの一斉調査～カマキリ編～ 21

【広報部会】
なごや生物多様性サマースクール2015 25

定例会 27

会員活動支援 28

名古屋城外堀生物生息環境調査 29
(名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち)

遺伝子組換えナタネ調査(2015) 30
(環境科学調査センター/なごや生物多様性センター)

荒池緑地水辺の生き物調査 31
(荒池ふるさとクラブ)

荒池緑地昆虫生息調査 32
(荒池ふるさとクラブ)

才井戸流のヘイケボタル幼虫調査 33
(特非)なごや東山の森づくりの会)

水田耕作とトリゲモ類の保全と保護活動 34
(特非)なごや東山の森づくりの会)

地域活動支援 36

牧野ヶ池緑地の保全 37
(牧野ヶ池緑地保全協議会)

細口池の生きもの復活作戦 38
(細口池生きもの復活クラブ)

曾池の池干しによる保全活動 39
(名古屋市内土木事務所)

「緑区東ノ池」の環境保全事業 40
(東ノ池『池干し』在来種の生態系保護実行委員会)

助成金事業 41

会員団体の活動紹介・報告

相生山緑地自然観察会 42

愛知守山自然の会 42

雨池ホタルの会 43

荒池ふるさとクラブ 43

伊勢・三河湾流域ネットワーク 44

大高緑地湿地の会 44

かんでらmonzen亭
「笠寺ミツバチプロジェクト」 45

雑木林研究会 45

中部蜘蛛懇談会 46

なごや外来種を考える会 46

「なごや環境大学」実行委員会 47

名古屋昆虫同好会 47

名古屋自然観察会 48

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち 48

名古屋市立大学大学院システム自然科学
研究科附属生物多様性研究センター 49

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会 49

(特非)なごや東山の森づくりの会 50

NPO法人 日進野菜塾 50

日本カメ自然誌研究会 51

日本野鳥の会愛知県支部 51

花水緑の会 52

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会 52

三河淡水生物ネットワーク 53

名東自然観察会 53

もりづくり会議 54

守山リス研究会 54

矢田・庄内川をきれいにする会 55

山崎川グリーンマップ 55

前会長の瀧川さんからバトンを受け、今年度より当協議会の会長を務めることとなりました。

私自身生きものの専門家ではありませんが、20余年にわたり名古屋市、愛知県内を中心に、放置された里山林の保全再生活動に携わってきました。既存林を抱える公園緑地では、市民参加による森づくり活動を行政機関との協働で進めることとなりますが、市民の関心を集め理解を深めながら、里山林をあるべき姿へと植生管理するハード面とともに、これらを進めるための基盤として行政機関との協働の仕組みづくりなどソフト面での対応も重要です。

なごやの生物多様性保全活動の推進もまた、市民主導による「なごや生物多様性保全活動協議会」と、市の行政機関である「なごや生物多様性センター」の二人三脚で進めていく仕組みになっています。しかし市民セクター自体、一枚岩とは言えません。名古屋の自然環境保全に関する合意形成は実に多様な意見を持つ市民関心層、学識者、研究者、そして最も重要で多数派の無関心層がその対象となり、それぞれの専門家たちの意見もまた多様です。

2005年愛知万博の年の8月、名古屋で市民400名の参加によって同時多点気温測定調査が行われました。この市民ムーブメントはその後多様な市民層を巻き込みながら、名古屋の生息生物調査(2006～現在)、名古屋・東山新池ため池調査(2007)へと展開を見せながら、2008年からの「なごや生物多様性センターに関する検討」へと収斂していきました。この間、実に数多くの勉強会、議論、実践活動が重ねられましたが、「名古屋・愛知に自然史博物館を!」「生物多様性センターを名古屋に!」という、当地域の自然史に関する知の拠点づくりに対しては、皆さん全く異論が無く、異口同音に強く望まれている点で完全に一致していたことが印象的でした。私はこの一点で、名古屋・愛知の自然環境に関わるすべて

の人々は結集できると確信しました。

2008年8月の市民提案から始まった「なごや生物多様性センター構想」は、多くの面談、会合、勉強会、実践活動、シンポジウムを経て、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の翌年である2011年5月に「なごや生物多様性保全活動協議会」の発足を迎え、同年9月に「なごや生物多様性センター」の設立へと結びつきました。そしてこれは、「名古屋・愛知に自然史博物館を」に向かう最初のステップであると思うのです。

しかし、近年の財政状況や自然史に対する市民の関心のレベルを見ると、この道のりは決して容易で無いことは想像に難くありません。

2009年度に開催した勉強会の中で、大阪市立自然史博物館の設立までの経緯を学芸員の佐久間さんに伺う機会に恵まれました。ここで学んだことの一つは、大阪市立自然史博物館も設立までに長い道のりがあったこと。そして、博物館活動にとって、これを支える市民サイドの支援や活動が原動力であるということでした。

全国各地の自然史博物館の存続や経営が決して順風満帆でない状況に鑑みても、私たち協議会は、名古屋市民に対して、生きものへの親しみや関心をもつ魅力的な機会を提供し、生物多様性保全の重要性を普及・啓発し続けていかなければなりません。このような状況づくりとその維持が無ければ、名古屋・愛知に自然史博物館が実現する、その好機を捉えることはできないかもしれません。

多くの自然環境や生きものファン、市井の専門家、学術研究者、関係行政機関の方々たちとともに、このベースを守り成長させていきたいと思えます。

市民の皆さん、身近ななごやの自然や生きものとふれあいましょう。そして、なごや生物多様性保全活動協議会の活動に奮ってご参加頂きますようお願い致します。

■ なごや生物多様性保全活動協議会・なごや生物多様性センターの発足までのあゆみ



●2005.08.07 名古屋気温測定調査 2005



●2006.02.26 名古屋気温測定調査報告会



●2006.08.05 名古屋の生息生物調査(灯火採集)



●2007.02.04 自然を生かしたまちづくりシンポジウム準備会



●2007.03.31 自然を生かしたまちづくりシンポジウム



●2007・05・10 名古屋・東山新池ため池調査実行委員会



●2007.07.28 名古屋・東山新池ため池調査



●2008.03.26 東山新池調査と提言・副市長面談



●2008.08.27 なごやの里山とため池の自然展



●2008.08.29 環境局長面談



●2008.12.15 生物多様性センター検討会



●2009.05.21 市民提言・市長面談



●2009.10.30 生物多様性センターに係る勉強会 1



●2009.11.26 生物多様性センターに係る勉強会 2



●2010.03.28 シンポジウム生物多様性保全における拠点機関の役割

なごや生物多様性保全活動協議会について

はじめに

名古屋市には東部丘陵地を中心に 111 箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10 開催決定を契機に、平成 20 年度から 3 年間で、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成 23 年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」といいます。）を平成 23 年 5 月 15 日に設立しました。

協議会の設置目的は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践する」ことです。

協議会の活動

協議会は、設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っており、平成 23～25 年度の活動は、環境省からの交付金（環境省生物多様性保全推進支援事業）および名古屋市からの負担金により、平成 26 年度の活動は、一般財団法人セブン - イレブン記念財団の助成金および名古屋市の負担金により、平成 27 年度の活動は、名古屋市の負担金のみにより、事業を実施しています。

協議会が平成 27 年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシッピアカミミガメ・園芸スイレン・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内のため池・水路・名古屋城などにおける生物調査と外来種防除、アンケートによるヒキガエル調査を行いました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもつていただく機会として、7～8 月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール」を、10 月には地域の方々に調査に参加してもらい「カマキリ類の一斉調査」を実施しました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすために、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

協議会の取り組みを発信する場として、平成 28 年 4 月 29 日に活動報告会を実施します。

協議会の構成

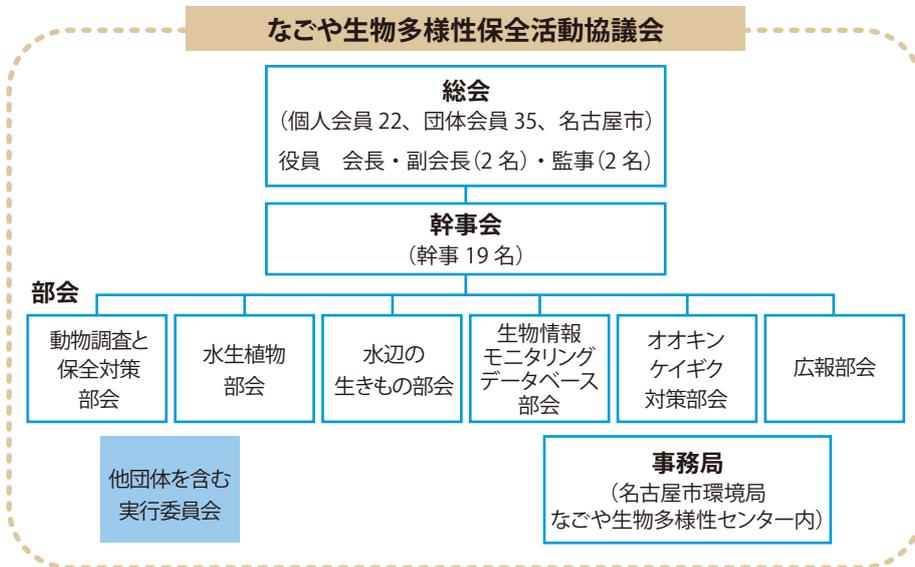
協議会は、平成 28 年 3 月末現在、22 の個人会員、35 の団体会員、名古屋市で構成しています。1 年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長 2 人・監事 2 人）と幹事（19 人）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・調査者等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備、連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへご参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。ご登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を随時案内しています。（平成 28 年 3 月 16 日現在・登録者数 712 名）

● 平成27年度協議会の組織・構成



● 部会一覧

- 動物調査と保全対策部会
- 水生植物部会
- 水辺の生きものの部会
- 生物情報モニタリングデータベース部会
- オオキンケイギク対策部会
- 広報部会

● 幹事一覧

(平成27年2月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
石原 則義	愛知守山自然の会／名古屋自然観察会	
大塚 徹	市内外来種及びため池調査	
大沼 淳一	水質	
小木原 吏香	なごや環境大学実行委員会	監事
小菅 崇之	水生植物	
柴田 良成	中部蜘蛛懇談会	
滝川 正子	なごや東山の森づくりの会	
津田 美子	名古屋市立長良中学校	
新實 豊	日本野鳥の会愛知県支部	
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科助教	
長谷川 泰洋	もりづくり会議	
堀田 守	なごや森づくりパートナーシップ連絡会	監事
間野 隆裕	名古屋昆虫同好会	副会長
眞弓 浩二	雑木林研究会	会長
安田 和代	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	
矢部 隆	環境局なごや生物多様性センター長	副会長
榊原 靖	名古屋市環境科学調査センター主任研究員	
早川 雅夫	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性推進担当)	

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 会員一覧

● 団体会員

氏名
相生山緑地自然観察会
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
かんでら monzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
特定非営利活動法人 環境市民 東海事務所
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
中部蜘蛛懇談会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
名古屋昆虫同好会
名古屋自然観察会(愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
名古屋市立鳴子台中学校科学部
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
特定非営利活動法人 なごや東山の森づくりの会
特定非営利活動法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名城大学理工学部環境創造学科齊藤研究室
名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室
名東自然観察会
もりづくり会議
守山リス研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ

(平成 27 年 3 月末現在・敬称略)

● 個人会員

氏名
飯尾 俊介
伊東 英幸
御池 俊輔
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
川瀬 基弘
小菅 崇之
澤村 壽
高木 順夫
高山 博好
津田 智
津田 美子
土山 ふみ
研谷 厚
富田 啓介
橋本 啓史
伴 知幾
松沢 孝晋
村上 健太郎
守谷 茂樹
森山 昭彦

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

● 通常総会の開催

開催日	主な内容
5月10日	<ol style="list-style-type: none"> 平成26年度事業報告について 平成26年度決算報告について 平成26年度会計監査報告について 平成27年度役員選出について 平成27年度事業計画(案)について 平成27年度収支予算(案)について

● 幹事会の開催

回	開催日	主 な 内 容
第1回	5月20日	1 各部会報告等 (1) 動物部会 (2) 水生植物部会 (3) 水辺の生きもの部会 (4) 生物情報モニタリングデータベース部会 (5) オオキンケイギク対策部会 (6) 広報部会 (7) 会員活動支援について 2 今後の協議会活動について 3 平成27年度幹事について
第2回	6月25日	1 各部会報告等 (1) 生物情報モニタリングデータベース部会 (2) オオキンケイギク対策部会 2 一斉調査について 3 報告書について 4 今後の協議会活動について
第3回	7月23日	1 一斉調査について 2 今後の協議会活動について
第4回	8月27日	1 一斉調査について 2 定例会について 3 部会報告等 (1) 生物情報モニタリングデータベース部会 4 センターまつり・ユースひろばについて
第5回	9月24日	1 定例会について 2 報告書について 3 塚ノ杵池のドローンによる空中撮影について
第6回	10月22日	1 一斉調査について 2 平成27年度の予算執行状況について 3 平成28年度の部会事業について 4 平成28年度の助成金交付について 5 平成27年度協議会活動報告書について 6 今後の協議会活動について
第7回	11月26日	1 平成28年度予算について 2 平成28年度助成金について 3 報告会・総会について 4 池干しに係る留意事項について 5 センター敷地内にある水生植物の今後について
第8回	12月24日	1 第7回幹事会の議事内容について 2 助成金事業について 3 報告会・総会について 4 平成28年度事業について 5 市民普及版「なごやの生きもの対応ガイドライン」(仮称)の作成について
第9回	1月28日	1 報告会について 2 謝金について 3 平成27年度予算の執行状況について 4 平成28年度予算について 5 平成28年度定例会について 6 なごや環境学習プラン(案)について 7 センター敷地から天白川水系水辺へのアプローチルート設置について
第10回	2月25日	1 平成28年度事業計画(案)・収支予算(案)について
第11回	3月24日	1 平成28年度事業計画(案)・収支予算(案)について 2 会員活動支援について 3 平成28年度助成金について

動物調査と保全対策部会

はじめに

市内と周辺に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体、市民調査員など）が協力して、対象種ごとの分布や生息状況、生息環境の特性を明らかにするための調査を行っています。また、採集、捕獲した生物の計測や標本化を実施して基礎的資料を収集、分析し、得られた結果を基に外来種の防除や在来種の保全を計画、実施します。その他、活動内容や調査の結果を市民に伝える啓発活動や環境学習にも協力しています。

平成27年度の活動

- ・ 罠類を使用したカメ類の生息分布調査
- ・ カメ類の産卵巣調査
- ・ アカミミガメの防除対策
- ・ センサーカメラによる哺乳類の生息分布調査
- ・ 音声を使ったコウモリ類の生息分布調査
- ・ アライグマの防除対策
- ・ 哺乳類標本の作製と分析

平成27年度の活動記録

● 浮島型罠によるアカミミガメの防除



図1. 浮島型罠の設置（山崎川）

（なごや生物多様性センター）野呂 達哉

- 内容** 浮島型罠によるアカミミガメの除去
- 場所** 山崎川（左右田橋上流、落合橋下流）
隼人池
- 日程** 山崎川（4月30日～5月29日）
隼人池（5月25日～2016年3月現在）
- 連携** 山崎川（山崎川グリーンマップ）
隼人池（隼人池公園特定愛護会）

● ニホンイシガメの産卵場所づくり

- 内容** ニホンイシガメの産卵場所となる環境を選定し、産卵場所として整備する
- 場所** 隼人池
- 日程** 7月10～28日
- 連携** 隼人池公園特定愛護会



図2. 整備したニホンイシガメの産卵場所（隼人池）

● カメ類の産卵巣および産卵場所調査

- 内容** カメ類の産卵場所の探索と産卵巣を見つけ、産卵した種や温度環境を調査する。
- 場所** 植田川、山崎川（豊岡コミュニティーセンター、名古屋市立大学薬学部薬用植物園）、堀川
- 日程** 植田川（4月15日）、豊岡コミュニティーセンター（5月25日、5月29日、9月29日）、名古屋市立大学薬用植物園（10月21日）、堀川（9月13日）
- 連携** 植田川（名城大学環境動物学研究室）、山崎川（山崎川グリーンマップ）、堀川（名古屋コミュニケーションアート専門学校）



図3. 産卵巣調査 (山崎川豊岡コミュニティーセンター)

● 植田川における
ニホンスッポンを中心としたカメ類の環境利用

内容 生息するカメ類の基礎調査を行い、選好する環境、食性などを明らかにした。

場所 植田川

日程 5月20日～10月28日に10回実施。

連携 名城大学環境動物学研究室



図4. 植田川のカメ調査

● ミシシippアカミミガメ生態系被害の
把握のための調査協力

内容 塚ノ杵池内にカメ密度を操作した実験区を設置し、実験区内部の水草の被食状況、生長の阻害等を評価することによって、ため池におけるアカミミガメの生態系影響を把握した。

場所 塚ノ杵池

日程 9月18日～24日

連携 (財)自然環境研究センター、なごや生物多様性センター、名東自然観察会、日本カメ自然誌研究会



図5. 実験区の作製

● アカミミガメ対策環境副大臣視察

内容 アカミミガメの特定外来生物指定に向けて、北村環境副大臣が名古屋市内のため池などを視察した。名古屋市内で視察は、部会が継続的にアカミミガメ対策を行っている隼人池とアカミミガメの繁殖により個体数が増加している塚ノ杵池において行われた。実際に部会員と市民調査員が、カゴ罟と浮島型罟によるアカミミガメの捕獲を行い、アカミミガメの現状や捕獲方法、その効果について環境副大臣に説明を行った。

場所 杵ヶ池、塚ノ杵池、隼人池

日程 7月21日 (塚ノ杵池に浮島型罟設置)、
28日 (塚ノ杵池にカゴ罟設置)、
29日 (杵ヶ池→塚ノ杵池→隼人池の順で視察)

連携 (財)自然環境研究センター、名東自然観察会、隼人池公園特定愛護会、日本カメ自然誌研究会、なごや生物多様性センター



図6. 北村環境副大臣視察 (塚ノ杵池)

動物調査と保全対策部会

● センサーカメラによる哺乳類生息分布調査

内容 各調査地域にセンサーカメラを設置し、哺乳類の分布状況を調査する。

場所 小幡緑地東園、大高緑地、猪高緑地、東山植物園、名古屋産業大学グラウンド周辺

日程 小幡緑地東園(10月5日～)、大高緑地(通年)、猪高緑地(通年)、東山植物園(3月9日～)、名古屋産業大学グラウンド周辺(3月2日～)

連携 金城学院大学小野研究室、名古屋大学エコトピア研究所林研究室、名東自然観察会、花水緑の会



図7. 自動撮影されたアライグマ(大高緑地)

● 音声を使ったコウモリ類生息分布調査



図8. コウモリの音声の自動録音(名古屋城)

内容 音声を録音、分析することでコウモリ類の生息分布調査を行った。名古屋城ではオヒキコウモリ音声の自動録音を試みた。

場所 小幡緑地、名古屋城、愛知県護国神社

日程 小幡緑地(9月3日)、名古屋城(6月16日、9月30日)、愛知県護国神社(5月26日)

連携 名古屋大学エコトピア研究所林研究室

● シベリアイタチの

年齢査定と性成熟および食性の特徴

内容 名古屋市で捕獲された個体の解剖を行い、年齢査定を実施、性成熟を推測した。さらに、胃内容物から食性を分析した。

場所 なごや生物多様性センター作業室

日程 通年

連携 名城大学環境動物学研究室

● アライグマ捕獲調査

内容 希少種および生態系保全のためのアライグマ捕獲を実施した。また、大高緑地では罠の見回りを保全団体が実施、事前に捕獲講習を行った。

場所 大高緑地、八竜湿地、二ツ池、雨池

日程 2月25日～(大高緑地)、3月1日～(八竜湿地、二ツ池、雨池)

連携 花水緑の会(大高緑地)



図9. アライグマ捕獲講習(大高緑地)

● アライグマとハクビシンの解剖実習

内容 防除捕獲された動物を材料として解剖実習を実施した。

場所 なごや生物多様性センター作業室

日程 4月8日、12日、17日

連携 名城大学環境動物学研究室、名城大学野生動物問題研究会



図 10. 解剖実習(なごや生物多様性センター作業室)

● 部会

日程 7月9日、12月22日

● 普及啓発活動

・テレビ取材

番組名 嵐にしやがれ

場 所 名古屋城外堀

日 程 9月12～15日

・池干し

場所 曾池、東ノ池

日程 曾池(9月29日)

東ノ池(10月21、25日、11月7日)

・環境学習

対象 八事小学校、南山大学付属小学校、
山崎川グリーンマップ

場所 隼人池、山崎川

日程 隼人池(6月22～23日、7月7日)

山崎川(7月24、25日)

・発表

内容 第17回日本カメ会議口頭発表「名古屋市内の野生下で見つかったハナガメとその交雑種について」

場所 静岡大学大学会館セミナー室

日程 2016年2月13日

・標本提供

内容 研究用として、いしかわ動物園にアカミミガメの生体を20個体程度提供した。

日程 8月13日

結果と今後について

今後、本年度の結果を踏まえた上で次年度以降の調査を進めるとともに、これらの結果をわかりやすく伝える「見える化」を実施したい。

はじめに

水生植物部会は、市内の水辺に生えている水生植物の調査・保全を目的にしています。

環境の変化などによって多くの植物が生育を脅かされている中で、水辺環境に生育する植物も、その多くが絶滅の危機に瀕しています。例えば「名古屋市版レッドリスト2015」では、リストに掲載された植物の、4種に1種が水辺の植物でした。

稲作の衰退や除草剤の影響、水質汚濁なども原因ですが、外来種が増えることも原因となっています。外来種の中で、ザリガニ、ソウギョ、コイ、アカミミガメなどの動物は水草を食べてしまいます。また、植物では園芸スイレンの他にホテイアオイや、キショウブなどの外来種も日本の水草の生育している場所を横取りしています。



図1. 水生植物を食べてしまう動物たち

これまでの主な活動内容

園芸スイレンをはじめとした外来種の駆除と、希少種の調査が主な活動内容です。

平成23年に名古屋市内111か所のため池のうち、87か所のため池を調査しました。多いのはヨシ、ガマ類、ヒシという在来種でしたが、次に多いのが園芸スイレンとキショウブでした。この園芸スイレンを除去するため、刈り取りや掘り上げ、遮光シートの敷設など、様々な方法で取り組んできました。

希少種の保護に関しては、平成24年に再発見された名古屋城のお堀に生育するオニバス

の調査など、市内各所の水辺に生える水生植物の調査を行っています。



図2. ため池に広がる園芸スイレン

平成27年度の活動記録

● 東山新池での園芸スイレン除去活動

千種区の東山新池では、池の大部分を園芸スイレンが覆っています。この園芸スイレンを除去するため、平成25年3月に約170㎡の遮光シートを敷設しました。平成27年12月に約3年間被覆した遮光シートの撤去を行い、シートの下に園芸スイレンが腐敗していることを確認しました。



図3. 池から引き上げた遮光シート

● 名古屋城のオニバス調査

平成27年6月の調査で大小含め20株のオニバスを確認しました。9月の調査では、再発見以来最も大きい直径131cmの葉を付けた個体が見られました。しかし、この1個体以外は見られませんでした。



図4. 9月に確認した巨大なオニバス

見つけたオニバスの葉1枚を採取し、押し葉標本にしました。完成した標本はなごや生物多様性センターまつりで展示しました。



図5. なごや生物多様性センターまつりでの展示

● 水田雑草調査

千種区の水田で水田雑草の調査をしました。前年度と比較して、生えている植物の種数は変わりませんが、分布域が変わっている様子を確認しました。



図6. 千種区の水田全景

● ドローンによる分布調査

名東区の塚ノ杵池でドローンによる園芸スイレンの分布調査を行いました。園芸スイレンが池の北西部に繁茂し、南東部にもいくつかのパッチが確認できました。



図7. 塚ノ杵池の写真

今後について

水生植物部会の活動は、平成28年度から水辺の生きもの部会において、引き続き水生植物の調査・保全等の活動を行います。

水辺の生きものの部会

(水辺の生きものの部会 部会長・環境科学調査センター) 榎原 靖 / (なごや生物多様性センター) 寺本 匡寛

はじめに

水辺のいきもの部会では、名古屋市内および近隣にある水域（周辺域を含む）に生息・生育する生きものについて、なごや生物多様性保全活動協議会会員、なごや市民生きもの調査員、学生、専門家、保全団体などと協働で、分布調査、生息・生育環境調査などを行います。さらに、これらの調査活動から得られた知見を基に在来種の保全対策や外来種の防除対策を計画し、実施することで在来の生物多様性の保全を図ります。

平成27年度の活動

今年度は以下に掲げる9項目の活動を行いました。

- ・茶屋ヶ坂池モニタリング調査
- ・水田・水路及びその周辺の生物調査
- ・ヒキガエルアンケート調査
- ・名古屋城外来種対策

- ・呼続公園曾池の池干し
- ・東ノ池の池干し
- ・カワバタモロコの保護
- ・猫ヶ洞池におけるヌマガイの保護
- ・スキルアップ講座

平成27年度の活動記録

● 各調査地ごとの在来種と外来種の割合

調査方法や調査回数に違いがありますが、平成27年度に生きもの調査を行った調査地（茶屋ヶ坂池、中川区の水田・水路、名古屋城水堀、呼続公園曾池、東ノ池）において確認した種を在来種（レッド掲載種）、在来種（レッド以外）、外来種に3区分し、それぞれの割合を算出しました（図1）。レッドとは、環境省²⁾、愛知県¹⁾、名古屋市⁴⁾のレッドリスト・レッドデータブックのことです。

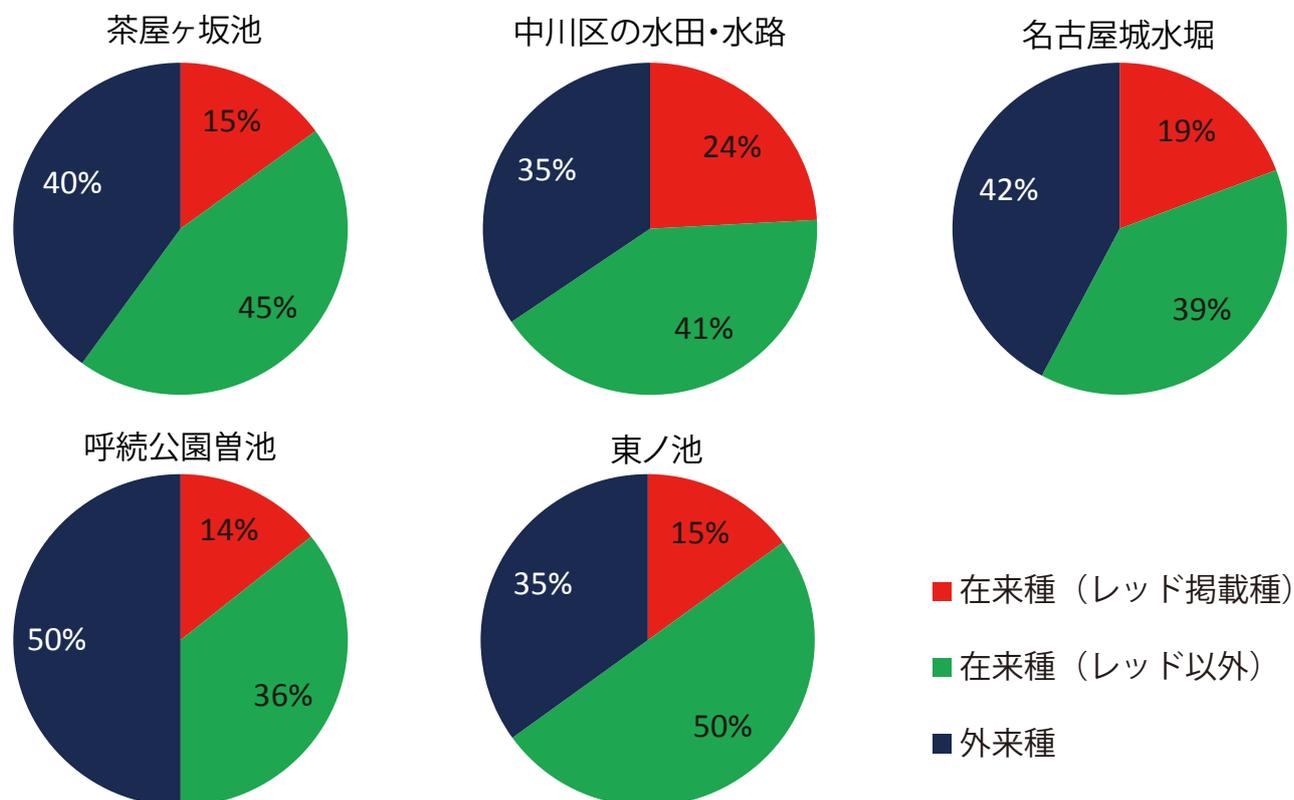


図1. 各調査地ごとの在来種・外来種の内訳

調査地全体で、在来種（レッド掲載種・レッド以外）の割合は、50～65%で、そのうち、在来種（レッド掲載種）の割合は15～24%でした。外来種の割合は35～50%を占めていました。

環境省のレッドリスト・レッドデータブックで評価されている動物の分類群（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他の無脊椎動物）のうち、絶滅のおそれのある種の割合が高いのは、汽水・淡水魚類の42%、次いで爬虫類の37%、両生類の33%の順になって³⁾、水域やその周辺に生息している生きものに絶滅の危機に瀕している種が多いと考えられます。

写真は、ため息の改修や埋め立て、水質悪化などによる生息環境の悪化で減少し、市内における正式な記録も非常に少ないタイコウチです。



写真1. タイコウチ（名古屋市NT）

● ヒキガエルアンケート調査

アズマヒキガエルは近年市内で激減しているとしてレッドデータブックなごや2015で絶滅危惧Ⅱ類に選定されました。そんな背景のもと、本種の過去・現在における分布状況を把握する必要があると考えてアンケート調査を行いました（図2）。

ウェブサイトでの呼びかけ、メールでの案内、アンケート用紙の配布、郵送といった方法でアンケート調査を行った結果、181件の回答を頂き、そのうち151件がヒキガエルの情報でした。寄せられた情報を区ごとの確認年代別に集計しました（図3）。これによる

と近年（平成23年以降）は西部（沖積平野）における目撃情報が得られませんでした。それ以前には市内全域で生息していたらしいことがわかりました。

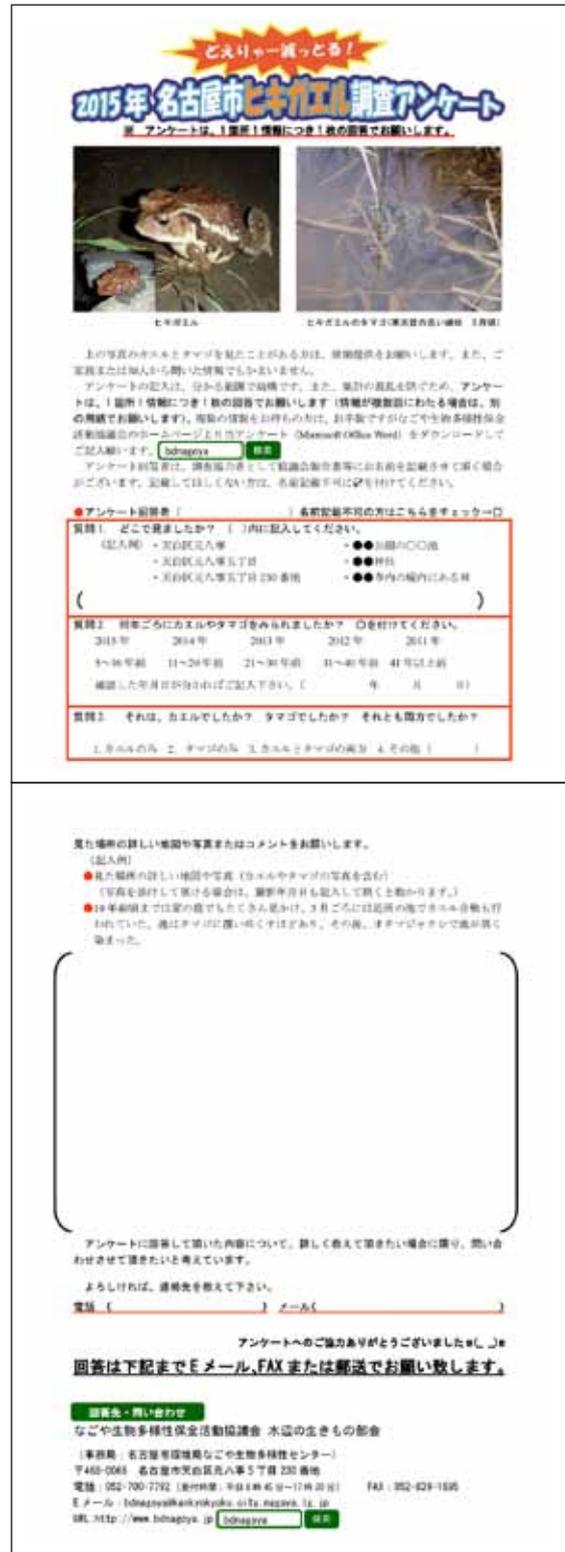


図2. ヒキガエルアンケート調査用紙

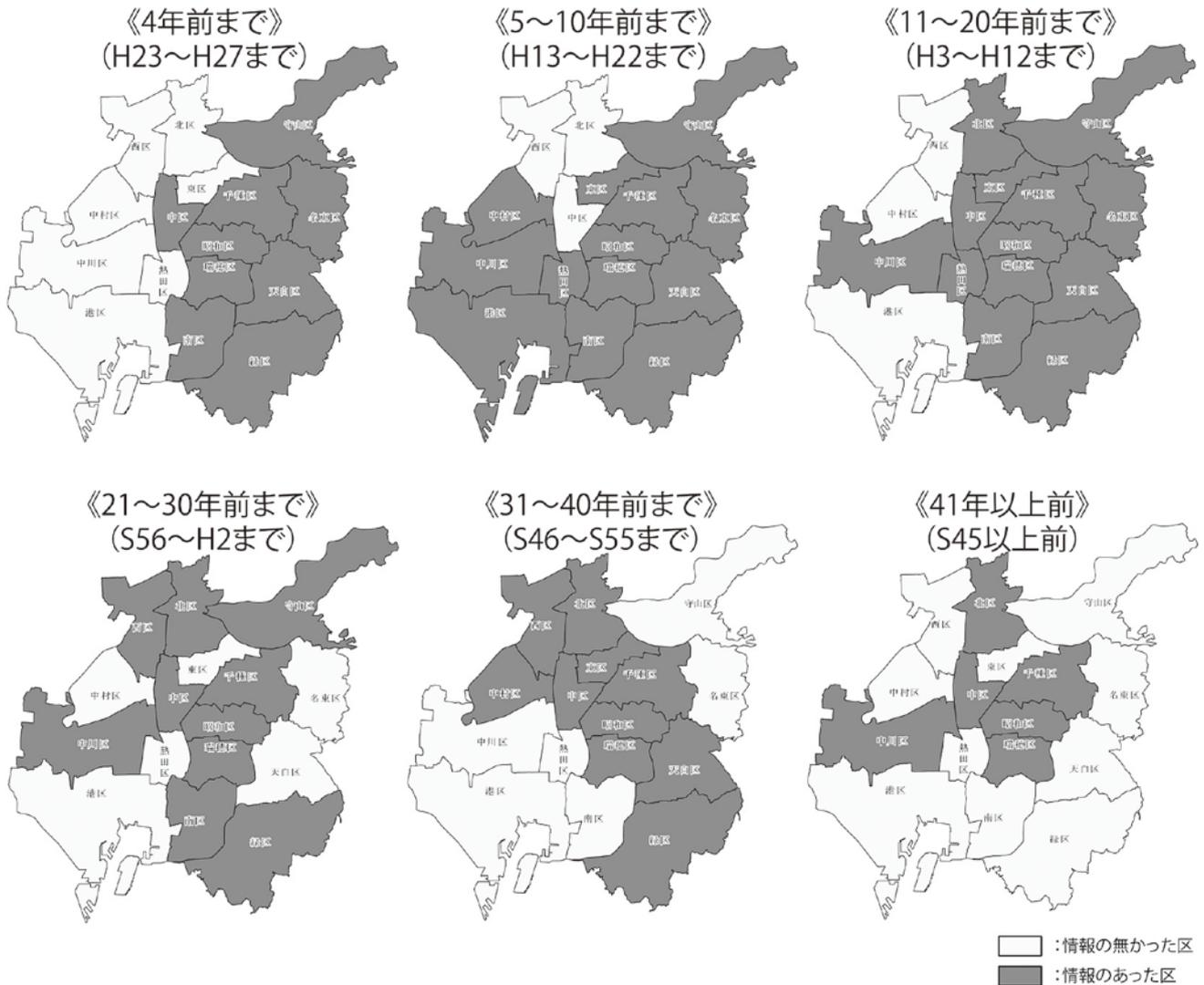


図 3. アンケート調査結果

● カワバタモロコの保護

中川区の用水路において「レッドデータブックなごや 2015」で絶滅危惧IA 類に選定されているカワバタモロコの生息が確認されました(写真 2)。この生息域が土地区画整理事業に伴って埋め立てられ消滅します(写真 3)。そのため、緊急避難措置として捕獲、飼育を行っています。



写真 2. カワバタモロコ



写真 3. カワバタモロコが生息する水路 (工事前)

● 猫ヶ洞池におけるヌマガイの保護

平成 24 年 12 月に行われた千種区猫ヶ洞池の池干し調査の際にヌマガイ（「レッドデータブックなごや 2015」で絶滅危惧IB 類に選定）の生息が確認されています（写真 4）。平成 28 年 1 月に猫ヶ洞池から山崎川に放水する暗渠の点検作業のため池の水位を下げるようになったので、一時的に保護する目的で、干出した部分に生息するヌマガイを水深の深い場所に移動しました。今後は水位の回復を待つ元場所に戻す予定です。



写真 4. ヌマガイ（愛知県 NT, 名古屋市 EN）

● スキルアップ講座

なごや生物多様性保全活動協議会会員およびなごや市民生きもの調査員のスキルアップを図る目的でスキルアップ講座を2回開催しました。

一回目は 6 月 4 日に愛知教育大学の島田知彦氏を講師に「もっと知ろう水辺の隣人ーカエル」と題してカエルについて学びました（写真 5）。

二回目は 9 月 6 日に漁師経験者の寺本昌司氏を講師に「漁網体験講座」として漁網の種類や投網の投げ方などを学びました（写真 6）。



写真 5. もっと知ろう水辺の隣人ーカエル



写真 6. 漁網体験講座

今後について

部会員は 16 名（平成 28 年 3 月末時点）ですが平成 28 年度から水生植物部会と合併して規模、活動内容が拡大する予定です。活動の内容や趣旨に賛同していただけて一緒に活動しようという意欲のある方の参加を随時求めていますので気軽にお問い合わせください。

参考文献

- 1) 愛知県（2015）：第三次レッドリスト「レッドリストあいち 2015」
- 2) 環境省（2014）：第 4 次レッドリスト
- 3) 環境省（2015）：環境白書 循環型社会白書 / 生物多様性白書
- 4) 名古屋市（2015）：名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物「レッドデータブックなごや 2015ー動物編ー」

生物情報モニタリングデータベース部会

(生物情報モニタリングデータベース部会 部会長・名城大学農学部) 橋本 啓史

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成 23 年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布(確認)状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、一昨年度から外来生物を中心に 11 種の生物の分布情報の収集と発信を行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ

<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

平成27年度の活動記録

● 部会の開催

今年度は 4 回の部会を開催した。

● 生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

協議会のウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは、今年度から 13 種追加し、表 1 に示す 24 種類の動植物である。また、昨年度末に新たに作成した情報を募集している生物の特徴や見分け方・登録の方法等を記載した情報募集チラシを様々な機会に配布し、情報提供の呼びかけを行った。また、協議会会員と市民調査員へメールでその時期の注目種をお知らせし(ツバメ(4月9日、6月4日)、コアジサシ(6月4日)、

クマバチ・タイワンタケクマバチ・ニホンアマガエル(8月4日)、ソウシチョウ(1月14日))、情報提供を呼びかけた。

今年度は(平成 28 年 3 月 2 日までに)、18 種 87 件の情報が寄せられた。

寄せられた情報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。

表. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippiaアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス(アマゴ)
昆虫	タイワンタケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン

○協議会の調査結果等のデータベースへの登録

協議会でを行った生物調査の結果をデータベースに登録するため、データの整理や標本目録の作成を進めた。特に平成 23 年度からの協議会の活動報告書に掲載されている生物調査結果は、名城大学の学生(2名)の協力を得て概ね登録を完了させることができた。

○生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布(確認)状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム(なごや生物情報閲覧システム)の維持・管理を行った。

なごや生物情報閲覧システムを介して広く一般に情報を公開する種は、希少種を除き、ある程度の情報が蓄積された種から順次、システムで情報を

公開している。平成25年12月からオオキンケイギクと外来スイレン、平成27年3月からヌートリアとソウシチョウについて公開していたが、平成28年1月からツバメとミシシippアカミミガメを追加公開した。

なお、ログインすることで、管理者はシステムに登録されている全ての種について、利用者（研究者等）は希少種を除く種について、このシステムを利用して閲覧することが出来る。

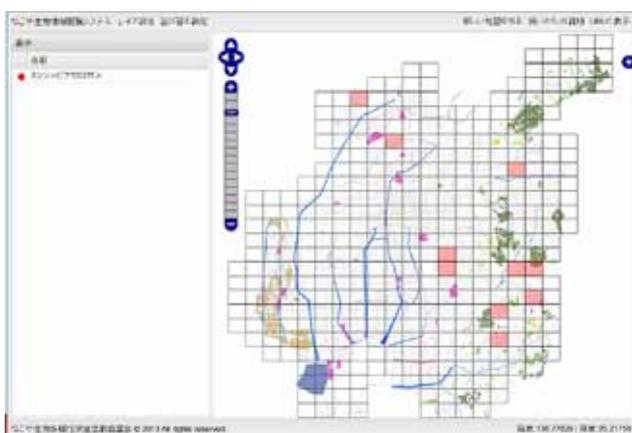


図. なごや生物情報閲覧システムでミシシippアカミミガメの分布(確認)状況を表示した時の例

○協議会のデータベースのシステム改修

より使いやすいシステムにするため、業者に依頼し、データベースおよびウェブサイトの改修を行った。主な改修点は以下の通りである。

(1) 体裁の修正

生きもの情報登録フォーム（一般向け）

- ・電子メールアドレスの入力欄を拡張
- ・生息・生育情報の入力欄を拡張

市民登録情報一覧：更新画面

- ・生息・生育情報の入力欄を拡張

地図表示画面

- ・「レイア設定」を「生物種を選ぶ」に変更
- ・地図上部に並ぶ機能選択ボタンの並び替えおよび左側に移動

(2) 機能の変更

生物情報の登録、確認、閲覧に係る各ページに以下の機能追加を行った。また、機能の追加にともなう体裁の修正も行った。

- ①生物の確認状況を示した写真の登録枚数を現行の1枚から最大3枚まで登録できるようにした。
- ②一覧表示画面のデフォルトの表示件数を全件とした。
- ③管理者による地点追加の際に緯度・経度情報を必須項目から外した。また、月、日の情報についても必須項目から外し、空白のままでの登録を可能にした。なお、年情報については現行どおり必須項目とした。

(3) 機能の追加

以下の機能の追加を行った。

- ①生物の確認状況を示した写真登録に際して、サムネイルのサイズにサーバ側で自動的に圧縮した上で保存できるようにした。
- ②一覧表示画面の検索結果、並べ替えの状態をセッションの間保持するようになった。

今後について

部会での議論により、今後はこれまで通り生物情報の収集・登録・発信を行っていく他に、新たに以下の2つ活動を追加して行うこととなった。

- (1) 写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成
- (2) 空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

オオキンケイギク対策部会



はじめに

オオキンケイギクとは北アメリカ原産のキク科の多年草で、背の高さは30～70cm、毎年5月～7月ごろにコスモスに似た黄色い花を咲かせます。明治時代に観賞用として輸入され、戦後は緑化工事に多く使用されました。ところが繁殖力が強すぎて在来種のカワラナデシコなどを駆逐してしまう侵略性が問題となり、2005年に特定外来生物に指定され、輸入栽培などが禁止されました。それでも一度定着してしまったオオキンケイギクは今も市内各地で増え続けています。

なごや生物多様性保全協議会では2013年に市民200名でオオキンケイギクの名古屋市内分布調査を行い、庄内川や天白川の河川敷に多数分布していることを確認しました。その後、定期的にオオキンケイギクを駆除し、名古屋市内からオオキンケイギクを減らしていくために2014年に「オオキンケイギク対策部会」を設立したのです。部会員は9名です。

これまでの主な活動内容

「オオキンケイギク部会」が2014年初めに行った活動は駆除実験です。矢田川のふれあい橋付近で①抜き取り ②刈取り ③花切りの3つの駆除方法を毎週続けて9週間試行し、再生状況を検証しました。この実験の意図は、一般的に役所が工事発注する草刈り機によるオオキンケイギクの刈取りが工事単価は安いのだが必ず再生してしまうことの改善点として、毎週連続刈取りした場合に駆除効果は得られるのかを見たかったのです。結果的には②の刈取り法では9週間続けても駆除できず、初回の駆除株数と2週目以降の累積駆除株数(新規確認株を含む)の比が826%と再生を繰り返すことが分かりました。③の花だけを切り取る方法も念のため繰り返しましたが、蕾の再生は続きました。それに対して①の根ごと抜き取りは1回実施すれば、再生率18%とはほぼ駆除できることが再確認できました。

抜き取り法	刈取り法	花切り法
再生率 18%	826%	161%

(オオキンケイギク対策部会 部会長) 野中 賢輔

平成27年度の活動記録

● 山崎川駆除活動計画

設立2年目の駆除活動は、場所を山崎川の河川敷としました。その理由は川の延長が短く、市外からの流入もないため、オオキンケイギクの種子が市外から流入する恐れがないことと、地元住民に非常に親しまれている川であることです。またオオキンケイギク駆除活動がどれだけの市民を集められるのかも未知数だったため、比較的短い山崎川を選定しました。

日付	人数	40リットル袋
名建協 5月9日	140人	50袋
市民 5月16日	58人	20袋
スタッフ 6月中	延べ18人	23袋

● 5月9日名古屋建設業協会(略称:名建協)

活動の初日は5月9日に名建協にお願いしました。名建協は土木・造園・建築など地元建設業者170社の集まりで、定期的にゴミ拾いを行うボランティア組織を持っているのでそのグループに依頼したところ、かつてはオオキンケイギクを緑化工事に使用してきた反省も込めて、快く引き受けてくれました。場所は一番多く生えている左右田橋から鼎橋までを担当し、当日は140人もの関係者が河川敷の急斜面に生えたオオキンケイギクを根ごと抜き取って歩いてくれました。40リットル袋換算で50袋分駆除できました。ありがとうございました。



● 5月16日市民調査員

一般市民への呼びかけに応募していただいた市民調査員は 30 名、協議会関係者は 28 名の合計 58 名が 5 月 16 日に抜き取り活動をしました。地元のコミュニティセンターでオオキンケイギクの侵略性で見分け方と抜き取り方を事前学習してから現地へ向かいました。ただし、当日は大雨が降ったため予定していた河川敷から、近くの空き地へ活動場所を変更しました。それでも 20 袋分のオオキンケイギクを山崎川の近隣地から駆除することができました。また当日はテレビ局や地元新聞記者の取材もあり、市民啓発にも一役買うことができたと思います。



● 6月2日～30日部会スタッフ

その後 6 月いっぱいにはオオキンケイギク対策部会のスタッフ数名で平日の夕方に集合する形で、おもに山崎川の昭和区内のオオキンケイギクを駆除しました。この地域では河川敷内の擁壁が数メートルから 10 メートルも切り立っており危険を伴うため、全員ヘルメット着用の上、はしごやロープや安全帯を使っての駆除活動です。5 回の活動で 23 袋のオオキンケイギクを抜き取り駆除できました。活動する姿が目立つため、地元住民に呼び止められて活動の意味を説明したり、学校帰りの小学生に激励されたりと、市民啓発にも役立てたと思います。



結果と今後について

2015 年度は 5 月 9 日から 6 月末まで述べ 214 人が参加し、山崎川ほぼ全域から 93 袋のオオキンケイギクを駆除したことになります。

それでも 9 月ごろには、抜いたはずの萩山橋あたりの河川敷で、オオキンケイギクが再生していました。このあたりでは埋土種子が多いのかもしれませんが。

実は昨年度も同じ場所で土木事務所の職員さん達が自主的にオオキンケイギクの抜き取り活動をしてくれたので、2 年連続の駆除活動をしたことになります。オオキンケイギクは 3 年連続で抜き取ると一定の駆除効果が出ると言われることがあるので、最低でもあと 1 年、来年度の 2016 年度も継続して山崎川全域の河川敷で駆除活動を続ける計画です。

名建協、市民募集、部会スタッフによる活動計画を作成中です。今後、市民参加による駆除会も行います。



なごや生きもの一斉調査 ～カマキリ編～

(なごや生きもの一斉調査幹事・名古屋昆虫同好会会長) 間野 隆裕

はじめに

日本自然保護協会では 2008 年にカマキリの一斉調査が行われました。愛知県、特に名古屋市ではほとんど参加者がありませんでした。また、それ以外にもカマキリの調査を実施されたことはなく、これまで名古屋市内のどこにどのようなカマキリが生息しているか不明のままです。また、近年外来種と思われるカマキリが発見され、陸上生態系に大きな影響が出てくる可能性が指摘されています。生き物の世界は人間社会と同様、めまぐるしく変化をしています。そこで、今回、名古屋市内のカマキリ一斉調査を実施し、現在の生息状況を記録したいと考えました。

主な活動内容

実施団体 なごや生物多様性保全活動協議会、なごや生物多様性センター、名古屋市内の各種自然関係（保全）団体及び個人

モットー

楽しく、有意義に、ちょっぴり学ぶ

実施内容

1) リーダー研修：9月25日（金）・9月26日（土）

参加人数：66名

2) 一斉調査：10月2日（金）・10月3日（土）・
10月4日（日）・10月5日（月）

参加人数：のべ503名

調査地点：96地点（図1）

千種区 18 地点、緑区 13 地点、
守山区 11 地点、天白区 9 地点、
名東・中村区 6 地点、
港・南・瑞穂区 5 地点、
中川区 4 地点、
熱田・西区 3 地点、
東・北・中・昭和区 2 地点

3) 標本作製会：10月10日（土）

参加人数：38名

4) 中間報告会：11月3日（火祝）

参加人数：116名



図1. 調査地点

調査結果概要

今回の調査では、オオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、ムネアカハラビロカマキリ、ココマキリの5種が記録されました(図2)。個体数では、オオカマキリが最も多く確認され、次いでチョウセンカマキリで、ムネアカハラビロカマキリが24個体と最も少ないものでした。



チョウセンカマキリ

オオカマキリ

ココマキリ

ハラビロカマキリ

ムネアカハラビロカマキリ

【杉本由紀雄 1004 東山の森】

【佐藤裕美子 1004 東山の森】

【田村ユカ 1003 名大東山キャンパス】

【大主順一 1004 大高緑地】

【大谷剛生 1003 東谷山】

図2. カマキリの成体

表1. 種別記録個体(卵鞘)数

種	成虫	♂	♀	不明	卵鞘	計
オオカマキリ	201	91	106	4	60	261
チョウセンカマキリ	64	30	33	1	3	67
ハラビロカマキリ	48	8	36	4	11	59
ムネアカハラビロカマキリ	23	14	6	3	1	24
ココマキリ	53	26	18	9	2	55
計	389	169	199	21	77	466

表2. 種別記録地点数

種	成虫	卵鞘		総(未)確認地点	個数/地点
オオカマキリ	56	23	内4ヵ所卵鞘のみ	60	4.4
チョウセンカマキリ	19	2	内2ヵ所卵鞘のみ	21	3.2
ハラビロカマキリ	28	6	内3ヵ所とも卵鞘のみ	31	1.9
ムネアカハラビロカマキリ	3	1		3	8.0
ココマキリ	28	2	内1ヵ所卵鞘のみ	29	1.9
未確認地点	23	66		21	

性別不明個体が予想以上に少なかったのは、リーダーの皆さんが、区別できるように事前準備をされた賜と考えます。個体数では、オオカマキリが最も多く確認され、次いでチョウセンカマキリで、ムネアカハラビロカマキリが24個体と最も少ないものでした。確認地点数でもオオカマキリの60地点が最も多く、ムネアカハラビロカマキリが最も少ないものでした。ただ、地点あたりの個数を見ると、ムネアカハラビロカマキリが圧倒的に多くなっています。もともと、この3地点だけよく見つける優秀な調査員が調査されたということもあるかもしれませんが、それなら他のカマキリもその場所では多くなるはずが、そうなっていません。これはムネアカハラビロカマキリが生息するようになると、急激に増えるということを示しているのかもしれませんが。

なごや生きもの一斉調査 ～カマキリ編～

種別確認地点は図3～7のようになりました。またカマキリ未記録地点は図8のようになりました。

今回の調査地点は、自然環境の良好な地点や人為的環境の色濃い地点など、極めて多様な環境となっており、その調査範囲も様々です。また1地点の調査員数や年齢、カマキリ発見の熟練度も異なっていました。そのため調査地点間の調査精度は全く異なります。また1回の調査でその地点に生息するカマキリの全種を記録することは不可能に近いものです。たとえば、外来種であるムネアカハラビロカマキリについて見ると、今回の一斉調査で3地点記録されましたが、これ以前の市民からの報告によると、今回の確認地点である守山区森林公園を含む6地点で記録されています(図7)。



【間野隆裕 1004 東山の森】

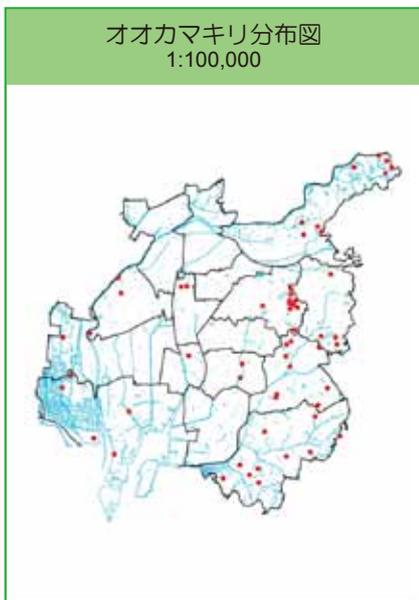


図3. オオカマキリ記録地点



図4. チョウセンカマキリ記録地点

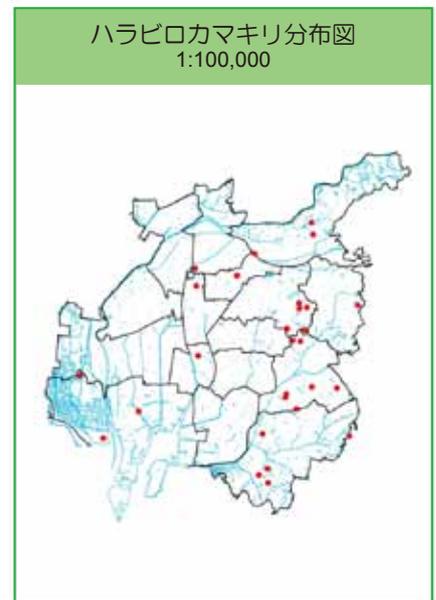


図5. ハラビロカマキリ記録地点

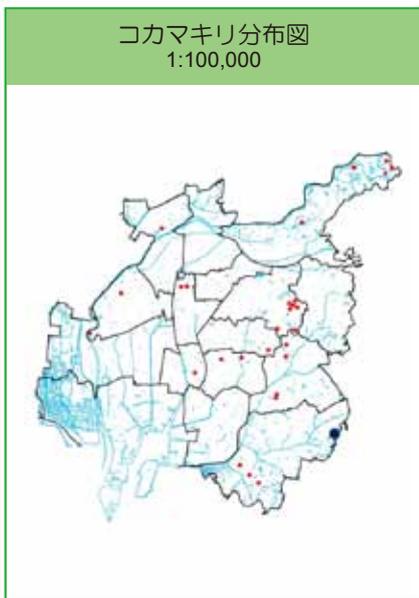


図6. コカマキリ記録地点
(図中●は市民からの事前報告記録地点)



図7. ムネアカハラビロカマキリ記録地点
(図中●は市民からの事前報告記録地点)

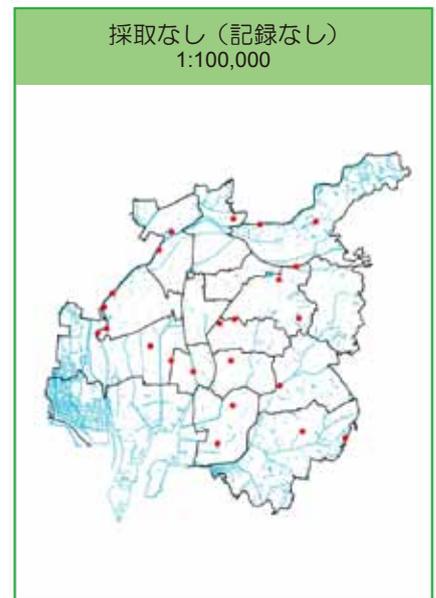


図8. カマキリ未記録地点

結果と今後について

今回、地元の多くの人の協力で、空前の規模の調査が実施できた事がまず一番の成果であると考えます。その結果名古屋市内におけるカマキリの分布状況について、ある程度の傾向をつかむことができました。また人的ネットワーク構築の一助となった事も大きいです。さらに、アンケート結果からは、比較的楽しく実施でき、自然の生き物を身近に感じ、見直すきっかけとなったことも成果と考えます。この陰には、当日多くの配慮の下実施されたリーダーの貢献が絶大でした。

今後はさらなる分布記録の集積をしつつ、生息動向を把握しなくてはいけなく、外来種であるムネアカハラビロカマキリについては、特に注意する必要があると考えます。



なごや生物多様性サマースクール2015

(広報部会 部会長) 眞弓 浩二

はじめに

当協議会では生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象（一部大人の参加もあり）に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を行っています。

「夏休みの宿題応援します!」をテーマに、子どもたちの夏休みの自由研究の助けとなるよう、協議会会員が指導者となり、専門知識を活かした講座を開催。森や川など身近な自然環境に生息する生きものたちに直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで、幅広い講座を準備しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に、目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が貴重な体験や学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持ってもらうきっかけとなるよう心がけています。

平成27年度の活動記録



企画名称

なごや生物多様性サマースクール 2015

開催期間

平成27年7月11日（土）～8月12日（水）

講座数

全13講座

参加者数

のべ243名

講師人数

のべ66名



チラシ（表面）

1 蝶の採集と標本づくり



2 甲虫の採集と標本づくり



1・2 共通

- 講師 名古屋昆虫同好会
- 日時 7月11日（土）9:00～15:30
- 会場 午前-猪高緑地
午後-なごや生物多様性センター設備棟
- 対象 小学生以上 定員 各30名

3 見てみよう! 田んぼの生きもの・川の生きもの



- 講師 NPO法人 日進野菜塾
- 日時 7月20日（月祝）9:40～11:45
- 会場 日進野菜塾の田んぼ・岩崎川下流(日進市)
- 対象 小・中学生 定員 30名

4 チリメンモンスターを探せ!



- 講師 山崎川グリーンマップ
- 日時 7月22日（水）10:00～12:00
- 会場 センター会議室
- 対象 小・中学生 定員 20名

⑤ カメを中心に水辺環境を観察しよう



講師 日本カメ自然誌研究会
日時 7月24日(金) 10:00～15:00
会場 なごや生物多様性センター設備棟・植田川
対象 小・中学生
定員 30名

⑧ 香流川・矢田川の水棲生物



講師 環境局環境科学調査センター
日時 7月28日(火) 9:30～12:30
会場 香流川、矢田川、名古屋市猪子石工場会議室
対象 小・中学生
定員 20名

⑪ 大矢川の生きもの調べ



講師 愛知守山自然の会
日時 8月5日(水) 10:00～12:00
会場 東谷山山麓 大矢川源流域
対象 小・中学生
定員 20名

⑥ 竹を知り、竹に親しもう



講師 環境カウンセラー 鬼頭保
日時 7月25日(土) 10:00～12:30
会場 平和公園・くらしの森
対象 小学4年生～中学生
定員 20名

⑨ 池のプランクトンの世界



講師 環境局環境科学調査センター・滋賀県琵琶湖環境科学センター
日時 7月31日(金) 10:00～15:00
会場 午前：茶屋ヶ坂池・隼人池
 午後：センター会議室
対象 小・中学生 **定員** 20名

⑫ 田んぼに育つ生きものの世界



講師 NPO法人 日進野菜塾
日時 8月6日(木) 9:40～11:45
会場 日進野菜塾の田んぼ・岩崎川下流(日進市)
対象 小学4年生以上～中学生
定員 20名

⑦ 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
日時 7月25日(土) 10:00～12:00
会場 相生山緑地オアシスの森
対象 小学5年生～中学生
定員 10名

⑩ クモの不思議発見!



講師 中部蜘蛛懇談会
日時 8月1日(土) 9:30～12:00
会場 八事山(興正寺周辺の森)
対象 小・中学生
定員 15名

⑬ 東山の森に入り、森を知ろう



講師 なごや東山の森づくりの会
日時 8月12日(水) 9:30～11:30
会場 東山の森・里山の家
対象 小・中学生
定員 15名

はじめに

定例会は、協議会メンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに2012年10月から始まりました。

これまで毎月1回、二人のスピーカーを招いて自分達の活動の紹介、自身が研究しているテーマなどをお話していただいています。

当初は協議会メンバーに限られていましたが、今は市民調査員や一般の方にも参加できるようになっています。既に40回を超え、延べ84人のスピーカーの方から日頃聞けないディープな内容をわかりやすくお話していただきました。

毎月この会を楽しみにしている常連さんも増え、時には大学生ばかりでなく小学生まで参加される事もあり、この会の広がりを感じています。

4月からは偶数月開催となりますが、第1水曜日、午後7時から、場所は名古屋環境局なごや生物多様性センターの会議室で開催は変わりません。皆さんの参加をお待ちしております。

また、スピーカーとしてお話していただける方も募集しております。



● 開催実績（平成27年4月～平成28年3月まで）

回	月日	発表者	内 容	参加人数	
30	4/1	株式会社竹中工務店	河崎 泰了	名古屋 蝶の飛ぶまちプロジェクト	34
		株式会社ボタニクス(園芸デザイン、環境プランニング)	富屋 均	東山公園一帯の変遷・江戸から昭和まで	
31	5/13	日本野鳥の会 愛知県支部	新實 豊	ウオンテッド! コアジサン	24
		相生山緑地自然観察会	近藤 記巳子	相生山緑のヒメボタルについて	
32	6/3	愛知教育大学 教育学部 助教	島田 知彦	愛知県を中心としたカエルの分布状況などについて	38
		名古屋昆虫同好会	大塚 篤	瀬戸市定光寺における注目すべきタマムシ(外来種)の生態	
33	7/1	栄徳高校教諭	水野 利彦	かっこいい! カマキリのはなし	37
34	8/1	公益財団法人日本野鳥の会 施設運営支援室 豊田市自然観察の森担当	山下 美夏	私とシデムシの12ヶ月	30
		名古屋短期大学現代教養学科 准教授	辻 広志	大学での環境教育	
35	9/2	ため池の自然研究会(名古屋学院大学非常勤講師)	土山 ふみ	ため池の風景 - 水質と植生の関わりを中心に -	28
		名城大学農学部生物環境科学科 ランドスケープ・デザイン学研究室 助授	橋本 啓史	環境調査にドローンを使ってみたら	
36	10/7	アジア航測株式会社 経営本部CSR推進室	松沢 孝晋	水辺環境をトンボの目線で診る	38
		名古屋昆虫同好会	大塚 篤	タカラガイの話	
37	11/4	法政大学文学部地理学科 助教	富田 啓介	東海地方の湧水湿地の目録作り	31
		なごや生物多様性センター	寺本 匡寛	自然環境調査の仕事 ～猛禽類調査を例に～	
38	12/2	なごや東山の森づくりの会	瀧川 正子	「東山の森の今」～確かな未来は懐かしい過去にある～	32
		元高校教員/著書「名古屋の大地とその生き立ち」他	村松 憲一	名古屋の大地とその生き立ち・ジオサイト	
39	2016 / 1/6	なごや生物多様性保全活動協議会	小菅 崇之	『蟲を喰らう植物!』～トマトからトウカイコモウセンゴケ～	27
		名古屋市東山動植物園飼育第一係	加藤 俊記	『ツシマヤマネコの保護の取り組み』	
40	2/3	ため池の自然研究会会員/名古屋学院大非常勤講師	土山 ふみ	ため池の保全について考える -1983年～2015年の名古屋東部及びその周辺のため池の環境調査より-	22
		なごや生物多様性協議会幹事、原子力市民委員会委員、市民放射能測定センター運営委員	大沼 淳一	市民放射能測定センターの4年間 ～自然史博物館構想への参考として	
41	3/2	「若き研究者が語る動物たちの行動学、生態学」		34	
		名古屋大学大学院生命農学研究科修士2年	早瀬 晴菜		シジウカラ科鳥類の親は雛へどのように餌を配分するか?
		名古屋大学大学院環境学研究科修士1年	田村 ユカ		津市から三重県桑名市にかけて広がる山陰川水系に生息するカメ類の生態と外来ガメの進出

会員活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通じたなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内(月1回・メールのみ)

平成27年度は、以下の活動について支援を行いました。

平成27年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	名古屋城外堀生物生息環境調査 (ヒメボタルを中心として)
日本野鳥の会愛知県支部	コアジサシ勉強会
名古屋市環境局なごや生物多様性センター	遺伝子組換えナタネ調査(2015)
荒池ふるさとクラブ	荒池緑地水辺の生き物調査／荒池緑地昆虫生息調査
なごや東山の森づくりの会	水田耕作とトリゲモ類の保全と保護活動／ 才井戸流のヘイケボタルの幼虫調査
名古屋昆虫同好会	講演会

上記以外、山崎川グリーンマップ、滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会(なごや森づくりパートナーシップ連絡会)、相生山緑地自然観察会、愛知守山自然の会へ、物品の貸出も行いました。

● 平成27年度 市民調査員への催事案内 件数

月	6月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	3件	3件	3件	4件	1件	3件	4件	6件	4件

名古屋城外堀生物生息環境調査 (ヒメボタル調査を中心として)

(名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち) 安田 和代

はじめに

山に棲むホタルと思われていたヒメボタルが、1975 年にお堀電車の走る都会の外堀で発見され、電車が廃線になってからも残されて今に至ります。今は「名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち」が、深夜のホタル観察や人の案内等を行ったり、行政や専門家と調査を行ったりして保全活動を行っています。その中で課題が出てきました。

- ① 深夜に訪れる人が増えてきて（一晩に 1,000 人の日もある）、安全対策が必要。
- ② ホタルの生活環境を調べるために、ホタル時期の深夜に毎晩気温測定をしてきたが、続けるのがきつくなってきた。

これらの課題の解決に向けて調査を始めました。

活動内容

● 課題 1

深夜に訪れる人の安全対策として、当会とともに深夜の活動を手伝ってくれる人を呼びかけることとしました。そのために、深夜の活動のシミュレーションを昼間に行うこととしました。

深夜にどのコースを通り、どのようにホタルの数を数え、どのように人に説明をしているか等知っていただけました。結果、深夜遅すぎteお手伝いは難しかったが、来年度に向けて大切な時間を設けることができよかったです。



図 1. 外堀ホタルの観察シミュレーション

安全対策として、多様性センターの人にも一緒に現地をまわっていただき、人の通り道をコーンで作ることにしました。これはとても効果的でありました。光るテープで矢印を示したが、思ったより見づらかったので、今回は使用するテープもしっかり検討したいです。

● 課題 2

ホタルの生活環境を調べるために、外堀の中で最も成虫が多く生息する断面の 3 か所 (A・B・C) に地中温度計 (データロガー) を設置しました。また、毎年普通の温度計で測定していた場所には、地上にデータロガーを設置しました。

断面には、9月から設置、地上には5月中旬から設置しました。データが残されてとても助かっています。来年度にも向けて継続して計測中です。

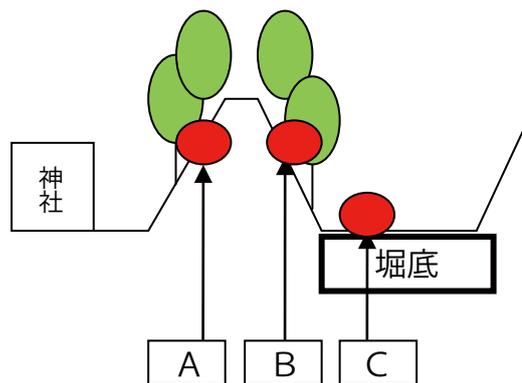


図 2. データロガー設置場所 (外堀断面図)

まとめ

2015 年の成虫発生時期が、例年と大きくずれました。2015 年初見日は 4 月末、ピーク日が 5 月 19 日で 5 月末には終息しました。例年は 5 月の連休明けから始まりピークが 5 月末でした。通年の温度を含めた環境を知ることが、発生時期を少しでも予想できる手掛かりになると考えます。

外堀のヒメボタルが後世に残るためには、多くの人に存在を知ってもらい、外堀を好きになってもらいたいと願います。多くの方が安全に楽しくホタルがたくさん光っている時期に来られるように、調査を継続していきたいと思ひます。

遺伝子組換えナタネ調査 (2015)

(環境科学調査センター) 大畑 史江 岡村 祐里子 榑原 靖
(なごや生物多様性センター) 早川 雅夫 森山 博光 橋村 侑磨

はじめに

遺伝子組換え作物とは、バイオテクノロジーによって新たな遺伝的性質を持った作物のことです。現在のところ、明らかに遺伝子組換え作物が原因で、生物の多様性に著しく影響を与えたという事例はありません。

しかし、何らかの理由で野外に定着し、他の生物を駆逐したり、同じ種や近縁の種と交雑して自然界に拡散したりすることにより、生物の遺伝的多様性に影響を与えてしまう可能性が指摘されています。

中でも遺伝子組換えナタネ(=組換え遺伝子を持つセイヨウアブラナ)は、全国的に野生化が指摘されています。原因は主にトラック等による輸送中の種子のこぼれ落ちによるものとされています。セイヨウアブラナはアブラナ科ですが、アブラナ科の仲間は互いに交雑しやすいことが知られており、組換え遺伝子が他のアブラナ科植物に広がる懸念が懸念されています。

このことから、名古屋市環境科学調査センターは、2012年から2014年にかけて、遺伝子組換えナタネの調査を行い、市内の現状把握を行いました。その結果、名古屋港周辺や国道23号線上に多くの遺伝子組換えナタネが分布していることを確認しました^{4) 5) 6)}。

ただし、その分布は限定的で、遺伝子組換えナタネ繁殖によって生息範囲を拡大している様子は見られませんでした。

2013年からはなごや生物保全活動協議会と協力し、前述の調査で特に多くの遺伝子組換えナタネが見つかった範囲で、一般市民や市民調査員の方々との分布調査や勉強会も行っています。2015年度からは、なごや生物多様性センター主催で同様の調査を行う予定でしたが、事前調査の結果、セイヨウアブラナ自体がほとんどみつからなかったために中止となりました。今回は2015年5月1日に環境科学調査センターとなごや生物多様性センターが実施した事前調査の結果を報告します。

調査方法

図1の主要地方道名古屋線、船見町交差点から北へ進み、大江町交差点までの範囲を調査しました。徒歩で移動しながらセイヨウアブラナの目視による確認とサンプリングをし、PCR法によるDNA分析を行いました。PCR法によるDNA分析においては、農薬ラウンドアップ耐性の *cp4 epsps* 遺伝子の内部の配列 *EPSPS7*

および *EPSPS8* と、農薬バスタ耐性 *bar* 遺伝子の内部の配列 *bar7* および *bar8* を用いました。反応条件は「平成22年度 遺伝子組換え生物による影響監視調査¹⁾」の方法に従った。なお、DNA分析は、環境科学調査センターが行いました。

調査結果

見つかったセイヨウアブラナは計10個体のみでした。分布と遺伝子解析結果を合わせて図1に示します。10個体のうち、農薬ラウンドアップ耐性遺伝子を持つ個体(*EPSPS* 検出)は4個体、農薬バスタ耐性遺伝子を持つ個体(*bar* 検出)は3個体、組換え遺伝子が検出されなかった個体は3個体でした。



図1. 遺伝子組換えナタネの分布
(基盤地図に地理院地図 (電子国土Web) を用いた)

まとめ

今年度はセイヨウアブラナが10個体しか見つかりませんでした。2013～2014年には同じ範囲で100個体以上が見つかることを考えると、この個体数は極端に少ないと言えます。調査範囲が工事中・工事直後であるためにセイヨウアブラナの生息箇所が減ったことや、遺伝子組換えナタネの抜き取りを行う市民団体が増えたことなどが原因と考えられますが、定かではありません。工事完了からの時間経過に伴ってまた生息場所が増えることも考えられるため、当面は引き続き調査を行っていきたいと考えています。

参考文献

- 1) 独立行政法人 国立環境研究所「平成22年度遺伝子組換え生物による影響監視調査」(2010)
- 2) 独立行政法人 国立環境研究所「遺伝子組換え生物(ナタネ)による影響監視調査」(2003)
- 3) 自然情報事務所(NIO)「外来種・遺伝子組換え生物ハンドブック」(2007)
- 4) なごや生物保全活動協議会報告書(2012)
- 5) なごや生物保全活動協議会報告書(2013)
- 6) なごや生物保全活動協議会報告書(2014)

荒池緑地水辺の生き物調査

(荒池ふるさとクラブ) 渡邊 一

はじめに

荒池緑地の水辺は、名古屋市内で3番目に大きなため池の荒池や大堤池、小さなため池の二つ池やトンボ池の他に水田があります。

水辺の生き物調査は、クラブ員の子供を主体に毎年実施してきました。荒池では子供の危険性を考慮して、堤防の一部でカニ網とモンドリ、たも網で実施しました。また、荒池の水質調査の折りにたも網での水辺の生き物確認を毎月5年間実施しました。毎回外来種のブルーギルが確認され、荒池も外来種の汚染が進んでいます。平成24年のザリガニの一斉調査では、荒池ではザリガニが捕獲されず、ミシシippアカミミガメが大量に捕獲され、生態系に異変がおきているものと思われます。

大堤池では子供たちの危険性を考慮して、堤防からモンドリとたも網で実施しました。平成18年には名古屋市が大堤池の浚渫を行う際に、池の一角に魚類の避難エリアを設け調査を実施しました。

大堤池には、まだ数種類のフナの確認やコオモシやマツモなどの生息も確認できました。

子供たちが安全に調査できる場所として、トンボ池や二つ池と水田で毎年実施しています。

二つ池では、平成25年に池干しをなごや生物多様性保全活動協議会のご協力を得て実施しました。

結果は名古屋ではあまり見かけないフナで、透明鱗のフナ「エベッサマ又はギョウキ」と呼ばれているフナが捕獲されました。愛知県津島市では天然記念物に指定されています。

二つ池は、枯渇していたものを、荒池ふるさとクラブの発足の最初の事業として、再度掘り起こして復元した池のため。多分誰かが放流したものと思われる。

今回は、子供たちを中心にした簡易な調査方法で実施した結果は以下のとおりです。

活動結果

調査日時 平成27年7月11日(土) 13:50 ~ 14:20

調査場所 荒池緑地二つ池

(天白区天白町大字平針大根ヶ越 173)

調査方法 カメワナ、投網、モンドリ

参加人員 大人27名 小人11名

講師 三河淡水生物ネットワーク 鶴飼 普氏
なごや生物多様性センター 寺本匡寛氏

二つ池は、上池と下池の二つの池があります。調査は上池にモンドリを仕掛け、下池にはカメワ

ナを前日に仕掛け当日にモンドリを仕掛けました。さらに、下池では投網を使って捕獲を行いました。子供たちは、たも網を使っての捕獲も行いました。当日は午前消防の安全講習会があり、調査時間が半日と短く、十分な調査ができませんでしたが、調査結果は次のとおりです。

● 上池の調査結果

調査方法	科名	種名	個体数
モンドリ	テナガエビ科	スジエビ	6
モンドリ	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	34
モンドリ	コイ科	モツゴ	4

● 下池の調査結果

調査方法	科名	種名	個体数
カメワナ	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	13
カメワナ	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	3
投網	テナガエビ科	スジエビ	5
投網	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	11
モンドリ	テナガエビ科	スジエビ	220
モンドリ	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	52
モンドリ	カダヤシ科	カダヤシ	14
モンドリ	コイ科	モツゴ	2



二つ池は、農業用のため池であったものが、周辺の開発が進むにつれ枯渇していました。名古屋市の「荒池緑地なごやかファーム構想」の着手に伴い、緑地整備の中で池跡を再度掘り起こし復元したものです。復元してから14年程しか経過していません。水系には、下流に大堤池がありますが水生の生物は遡上したとは考えにくく、人的に放流されたものと考えられます。

荒池緑地昆虫生息調査

(荒池ふるさとクラブ) 渡邊 一

はじめに

荒池緑地の昆虫は、雑木林や竹林、大きなため池や小さなため池、広場や草地など多様性に富んだ環境で恵まれた生息地と思われます。

生息する昆虫には、幅広い種がバランスよく確認されています。

荒池緑地での昆虫生息調査は、荒池ふるさとクラブ設立の平成 17 年から現在まで毎年開催しています。子供たちが好きな昆虫であるため、夏休みの最初の日曜日に開催します。平成 25 年までは、土・日曜日の二日間をかけて大掛かりに実施しました。土曜日は昼間にベイトトラップとピットフォールトラップの準備と設置を行い、夜間にはライトトラップで採取観察を行いました。日曜日には、午前中にトラップの回収と昆虫採取を行い、午後と同定・整理と発表会を行いました。

大掛かりな生息調査ができたのは、昆虫に非常に詳しいクラブ員が在籍していたためです。残念なことに平成 25 年に当人が定年とともに実家がある九州に移動されてしまいました。現在は、有志で土曜日にベイトトラップの設置をし、子供たちは日曜日の午前でトラップの回収と補虫網での採取、午後と同定・整理と発表会を行っています。でも、小学生で参加していたクラブ員が、現在は高校生になり昆虫に詳しく、あと数年で昆虫生息調査担当になってくれ、復活してくれるものと期待しています。

活動結果

- 準備日時** 平成 27 年 7 月 18 日(土)
13:00 ~ 14:00 ベイトトラップ作成
14:00 ~ 15:00 ベイトトラップ設置
- 調査日時** 平成 27 年 7 月 19 日(日)
19:00 ~ 11:30 トラップ回収と採取
12:30 ~ 15:00 同定・整理・発表
- 調査場所** 荒池緑地(雑木林、草地広場)
- 調査方法** 果実トラップ、補虫網でスウィーピング
- 参加人員** 大人 22 名 小人 19 名
- 講師** 名古屋昆虫同好会 戸田尚希氏
- 整理・発表会場** 平針公民館

調査の前日に、果実トラップを雑木林に 20 ケ所設置しました。子供たちに人気のある甲虫のカブトムシとクワガタは残念ながら少数しか捕獲できませんでした。例年は数多く捕獲できていたのですが、

成虫に孵化する時期が早かったのと、採取時間が日中になったためと思われます。

● 調査結果 (捕獲)

種類	種名	雑木林	草むら
チョウ類	アオスジアゲハ	1	
	ナガサキアゲハ	1	
	ゴマダラチョウ		2
トンボ類	シオカラトンボ		1
セミ類	アブラゼミ		1
バッタ類	シヨウリョウバッタ		9
	エンマコオロギ		11
	ツマグロイナゴ		1
バッタ類(ナナフシ類)	ナナフシモドキ	2	
バッタ類(ゴキブリ類)	モリチャバネゴキブリ	4	
甲虫類	ウスバカミキリ	6	
	ノコギリクワガタ♂	4	
	ノコギリクワガタ♀	2	
	カブトムシ♀	1	1
	オオナガコメツキ	1	
	タマムシ		1
	ナナホシデントウ		1
	ゴマダラカミキリ		1
	カナブン	6	
	ミカワオサムシ	1	
	アカマダラケシキスイ	1	
	ルリゴミムシダマシ	1	
	クビソゴミムシ	1	
ツマグロヒョウモン		1	
ハチ類	ヒメスズメバチ	1	
	モンズズメバチ	1	

今回の調査は時間や会場の関係で、調査場所を限定した範囲で行ったため、例年よく見かけた昆虫が捕獲できていませんでした。最も多く確認できるバッタ類には、ヒガシキリギリスや希少種のシブイロカヤキリモドキなどや甲虫のネブトクワガタ、コクワガタ、ヒラタクワガタなどが確認できておりません。また、トンボ類も 1 種類しか確認できておりませんが、大堤池周辺では、過去に 20 数種類のトンボ類が確認されています。チョウ類も今回は確認数が少なかったですが、例年には 10 種以上確認できています。



水田耕作とトリゲモ類の保全と保護活動

(（特非）なごや東山の森づくりの会) 瀧川 正子

はじめに

東山の森の「くらしの森」には里山景観として、また里山の水辺の生き物の生息環境としての水田があります。稲作は、なごや東山の森づくりの会が担当して6年目となります。この田んぼで2014年8月、水生植物のトリゲモ類が見つかり、なごや生物多様性保全活動協議会で水生植物部会の部会長をされている小菅さんに案内をしました。その後、その希少性、分類方法、特性、耕作や保全における注意点の指導を、小菅さんにお願しました。

● 発見の経緯

2014年8月 東山の森「くらしの森」の水田で水生植物のトリゲモ類を観察する。その後、小菅さんをご案内しました。

● 水田土壌の出自

名古屋市からの次の情報の提供がありました。

自生地は2009年、東山の森「くらしの森」に水田として造成された。面積は480㎡で3面に分かれている。造成時に名古屋市港区大西三丁目で調整池の造成の際に不要となった水田土壌の残土が加えられている。(写真：2014年撮影、名古屋市港区大西三丁目の調整池)

● 東山の森・くらしの森の稲作の方法

自生地では2010年から2015年現在まで毎年耕作が行われています。稲はJA尾東で販売されている喜寿という品種を苗の状態で購入しています。肥料は鶏糞をはじめ、近隣小学校の給食残飯をEM菌で発酵させたものを用いています。また、一時期、冬には中国産レンゲの種を蒔き、緑肥として用いていました。除草剤や農薬は一度も使われていません。

2015年のトリゲモ類の保全と保護活動

2015年の水田管理の方法は、今までどおり除草剤、化学肥料を使わない農法を継続しました。希

少種保護のための制限は設けません。その理由は、耕作に対するモチベーションを下げない事を重視する方針が示されたからです。トリゲモ類の種子の休眠期間が極めて長く、たとえ耕作手段が変化した事で1～2年の発生がみられない場合でも、絶滅の危険性は少ないと考えられるためです。

● 希少種トリゲモ類の標本作製

前年度の2014年9月29日、参加者7名、講師の小菅さんの解説と指導のもとに、なごや東山の森づくりの会は標本作成会を行いました。まず、水田全体にどのような種がどのくらい見られるかを解説した後に、標本用の生体を採取し、採取した標本は現地で新聞紙と不織布で挟み、野冊で閉じました。その後、水草の概要と希少性の解説と質疑応答の時間を設けました。

1月、なごや生物多様性センターへ希少種トリゲモ類の標本を納めました。

● 9月、トリゲモ類の水田耕作参加者への説明会

2015年9月5日、大人19名、小人14名の参加で、講師に小菅さんを迎えて、「案山子づくりと田んぼの水草を見てみよう」講座をもちました。水田の水草を紙皿にプッフスタイルで採取し、その観察と解説を実施した。この日も、イトトリゲモ、トリゲモ、ムサシモ、ホッスモ他2種を確認することができました。余談ですが、アオミドロを見るのも触るのも初めてとい参加者もいました。(写真：紙皿に水草を採取)

● 10月、今後の保全方針を検討会

2015年10月17日、講師の小菅さんから、トリゲモ類は冬場、枯死し、観賞価値が低く採集される可能性が低いこと、増殖するのが早いために採集圧は少ないことなどから、情報規制は必要性が薄い、現段階では積極的な広報は行わない方針が示されました。さらに、水田管理のあり方も、これらの種子の休眠期間が極めて長く、たとえ耕作手段が変化した事で1～2年の発生がみられない場合でも、絶滅の危険性は少ないことを繰り返し説明がありました。

前年度に行った希少種トリゲモ標本作成の様子



新聞紙と不織布を使っでの植物標本づくり



無農薬・有機農法は生物多様性つながる談義



4月、東山の森・くらしの森の水田の田起こし
慣れない手仕事で2010年から米作りに挑戦



6月、東山の森・くらしの森水田の草取り
水田雑草 コナギ、ヒエ、コウキヤガラ他



9月 各自で紙皿にトリゲモ類やシャジクモ類、
アオミドロ類をbuffスタイルで採集して観察



名古屋市港区大西三丁目の調整池
池の周辺から水田が縦て消えて宅地化(撮影：2014年)

才井戸流のヘイケボタル幼虫調査

(（特非）なごや東山の森づくりの会) 瀧川 正子

はじめに

才井戸流2号公園予定エリア一帯にはホタルとしてヒメボタルとヘイケボタルの2種の生息が確認されており、しかし、ヘイケボタルについて年々、生息数の減少と生息エリアの移動や変化は話題にはなるが、その基本データとなる幼虫調査をして補完し、生息地の保全計画に反映させる目的で計画をしました。なお、その背景には今年度、才井戸流2号公園予定エリアのヨシ刈りとその抜根に着手するため、緊急にヘイケボタルの幼虫調査となりました。11月上旬に3日間、日中調査と夜間調査をする。この調査の主体は「才井戸流の保全と2号公園の整備を考える会」(事務局名古屋まちづくり公社志段味開発部)の構成員の「中志段味の自然を次世代に伝える会」を中心として実施しました。

なお、当初はヘイケボタルの幼虫を調査目的としましたが、講師の小俣軍平さん(日本ホタルの会理事、陸生ホタル生態研究会事務局長)からのアドバイスもあり、クロマドボタルなど他種のホタルも調査対象としました。

調査日と調査人数

● 事前準備

	回数	延べ人数
草刈りと足場整備	6	30名

● 下池の調査結果

月日	昼間調査	夜間調査	総人数
11/2(月)	15名	9名	24名
11/3(火)	21名	7名	28名
11/4(水)	10名	/	10名

調査結果

● 調査方法

昼間調査 タモ網で泥採取して、湧水で泥の洗い流し方法

夜間調査 幼虫の発する蛍光を目視による調査方法

● 発見した場所と数量

諏訪神社北崖下東(A地区)川横の側道にオバボタルの2匹を生息確認しました。また、ここは昼間調査では生息を知らずに踏み荒らしたエリアでした。さらに、オバボタルとマドボタルの幼虫は中流域のコンクリート側壁の苔中にも4匹生息確認しました。

ヘイケボタルの幼虫は湿地帯に1匹と二つビオトープを結ぶ溝水中に1匹、合計2匹のみ確認しました。

● その他の生き物の記録

- ・爬虫類 (カナヘビ)
- ・巻貝類 (サカマキ貝・湿地の小さなカワニナ)
- ・環形動物 (イトミミズ類・イシビル類)
- ・扁形動物 (プラナリア)
- ・甲殻類 (アメリカザリガニ・ミナミヌマエビ)
- ・昆虫類 (ミズムシ・ケラ・ゲンゴロウ・ユスリカ・カゲロウ・シマアメンボ・オニヤンマのヤゴ・他ヤゴ1種)

講師の小俣先生から与えられた課題

- ① ヘイケボタルの幼虫に前胸斑紋型異変がある。
- ② 湿地に少量のカワニナはいるが何を食べているか。
- ③ 水路があるのになぜ湿地にこだわるのか。
- ④ オバボタル・マドボタルの餌は何か。ミミズ・ミズムシはいた。ミミズだけは食餌と判明した。
- ⑤ スジグロもいる可能性がある。オオマドボタルの可能性もあった。

ホタル幼虫調査を終えて

目的のヘイケボタルの幼虫生息地域は密度とともに不十分な面を残したが幼虫の生息域は見えてきました。専門家を呼び、細部に亘る生息実態も明らかにでき、引き続き多様な生物の繁栄する公園造りをするための課題も指摘して頂き、共同作業を続けて行く事の大切さも確認することができました。

地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

平成27年度は、以下の5つの活動について支援を行いました。

平成27年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
牧野ヶ池緑地保全協議会	牧野ヶ池緑地の保全
堀川と生活を考える会	9月19日・名古屋環境デーへの「堀川の生物」出展
細口池生きもの復活クラブ	細口池の生きもの復活作戦
呼続学区連絡協議会 名古屋市南土木事務所	曾池の池干しによる保全活動
桶狭間学区中町内会 東ノ池を美しくする会 郷前公園愛護会	「緑区東ノ池」の環境保全事業

牧野ヶ池緑地の保全

(牧野ヶ池緑地保全協議会) 巾 賢治

はじめに

牧野ヶ池緑地保全協議会は、自然環境豊かな県営都市公園である「牧野ヶ池緑地」において、活動する団体等が互いの立場を尊重し、牧野池をはじめとした緑地・湿地の保全整備の必要性を共有することで、生物多様性豊かな緑地づくりを目指すことを目的としています。

活動内容

保全協議会では毎月第3火曜日に会議を開催し、緑地保全について共有を図りながら活動を行っています。

● スイレンの抜き取り調査

牧野池では、平成25年(6月27日)に牧野池全域での分布調査、平成26年(5月31日、6月7日、10月4日)に牧野池の北西側で抜き取り調査を行いました。

今年度は、これまでの活動を継続し5月30日に同じ場所での抜き取り調査を行いました(図1、2)。合計4回の活動によって、約200m²でスイレンを取り除くことができたものの、池内には多くのスイレンが生育しており、より効果的な方法を模索しています。



図1. スイレンの抜き取り (2015年5月30日)



図2. スイレンの抜き取り (2015年5月30日)

● 牧野ヶ池緑地の生きものを調べよう

8月1日に牧野ヶ池緑地の生きものを調べるイベントを実施し、25名の方に参加していただきました(図3)。

植物ではガガブタやヌマトラノオ、ミズユキノシタなど、魚類ではブルーギルやコイなどの外来種、甲殻類ではテナガエビやスジエビなどを観察することができました。



図3. 牧野ヶ池緑地の生きものを調べよう

これらの活動の他、保護柵の設置等による希少種の保護(随時)、ミニ里山体験(4月4日)、牧野ヶ池緑地まつり(11月14日)なども行いました。

細口池の生きもの復活作戦

はじめに

細口池生きもの復活クラブは、天白区内の細口池において、ツバメのねぐらの復活と、池の生物多様性保全を目的に活動しています。平成 23 年度に協議会の地域活動支援事業により、池に生息する生きもの調査を実施したことに始まり、平成 25 年度からは実質の保全作業にも着手しました。まず、ヒメガマを除去するため協議会の協力を得て、遮光シートを 250 m²敷設しました。次年度に調査した結果、完全に根腐れしたことが分かったので北側隣接地にシートを移設しました。また、わずかに残ったヨシを再生するため水面（約 6,000 m²）を占有していたヒメガマの根茎除去と併せてヘドロを除去し、水面を池面積の 30% 程度復活させることが出来ました。残りのヒメガマは土木事務所の協力を得て刈取り（刈草マルチング）しました。生物調査と特定外来種の除去は 5 年間継続して行い、協議会から生物調査の指導と資材の貸出しの支援を受けました。

活動内容

平成 27 年度調査及び保全作業は、毎月 1 回の定例活動と若干名による常時の活動を行いました。

● 定例活動：毎月第 2 土曜日

活動日	活動内容
4月11日	活動計画打合せ、ヨシ生育分布調査
5月16日	ヒメガマ根茎除去・簡易な生物調査
6月13日	ヒメガマの根茎除去と刈り取り
7月11日	ヒメガマの根茎除去と刈り取り
8月21日	生物調査カメラの池内設置
8月22日	生物調査・解説及び特定外来種除去
9月19日	土木事務所の協力を得て、ヒメガマの刈り取り
10月10日	生物調査及び特定外来種除去
11月21日	市民緑地竹林整備に協力
12月12日	遮光シート撤去 250 m ² ・活動報告会
1月16日	遮光シート袋詰め運搬・集積
2月14日	里山保全活動に協力



全面ガマが占有していた池に水面が復活した

● 常時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 2月20日 ほぼ毎日 若干名	ヒメガマの根茎除去・ヘドロの除去、ヒメガマの刈取り、根茎の片づけ、清掃等

（細口池生きもの復活クラブ 代表）浅井正明



ガマの根茎除去作業 シートを裁断して撤去

● 生物調査結果：8/22、10/11 の 2 回実施

今回初めてドジョウの仲間、クサガメ、モクズガニが 1 体ずつ採集できました。カダヤシ、ウシガエルは依然として多数採集できましたが、アメリカザリガニは顕著に減少しました。捕獲した在来種は、池に放流し、特定外来生物は処分しました。



分類群	種名
魚類	ドジョウの仲間、フナの仲間（多い）、モツゴ（多い）、
甲殻類	トウヨシノボリ、カダヤシ（多い）、コイ（目視多い） モクズガニ、スジエビ（多い）、アメリカザリガニ（多い）
は虫類	クサガメ、ミシシippアカミミガメ
両生類	ウシガエル（幼体多数、成体）
鳥類	バン、アオサギ、コサギ、カルガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、コガモ、セグロセキレイ、ハクセキレイ
昆虫類	ヤゴ(2)、ギンヤンマ、シオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ

※上記の他5年間で確認された種

甲殻類→ミナミヌマエビ、ミシシippヌマエビ / は虫類→ニホンイシガメ / 昆虫類→ヒメズカマキリ / 鳥類→カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ

まとめ

細口池では 5 年間の調査でブルーギル、ブラックバス、カムルチーは確認されていません。一方、ニホンイシガメは、3 度捕獲され、繁殖も確認されています。生物相に大きなダメージを与える侵略的外来生物の影響は比較的軽微で貴重な在来種の生息が確認されており、今後保全活動を推進していくことでより改善されることが期待されます。モクズガニの生息は、細口池でも生物が海と行き来していることが立証されました。今年度はトンボ類の簡易調査を専門家が実施し、6 種の確認に留まりましたが、開放水面の著しい増加、多量の抽水植物の生育、樹林地の成長などによって、今後種の増加が期待されるとの評価を得ました。ヒメガマの除去について、根茎の切除掘り上げ・遮光シート・刈り草マルチングが想定以上の効果を上げ、水位の低下と併せて、ヨシ生育域が著しく増加しました。28 年度には、ツバメのねぐらとなるヨシの大群落が形成されることが期待されます。

曾池の池干しによる保全活動

名古屋市南土木事務所

はじめに

- 活動名** 曾池における池干し
- 実施主体** 南区呼続学区連絡協議会
名古屋市南土木事務所
- 時期** 平成 27 年 10 月 25 日 (日)
9:00 ~ 12:00
- 場所** 南区呼続四丁目 (呼続公園内曾池)

活動内容

呼続公園内にある曾池で、悪臭などの苦情があったことから、池の水位を下げ、浮島（朽ちたスイレン）の撤去、バイク・自転車などの回収を行いました。池の水位を下げるという滅多にないこの機会に、呼続学区連絡協議会の皆様となごや生物多様性保全活動協議会の会員及び南土木事務所の職員が協働して池干しを行い、池の生物の環境学習会も行うこととしました。



池に入る前の準備



タモアミを使って生物の採取



池から上がって手洗い



採取した生物

「緑区東ノ池」の環境保全事業

東ノ池『池干し』在来種の生態系保護実行委員会

はじめに

活動名

東ノ池『池干し』在来種の生態系保護活動

実施主体

東ノ池『池干し』在来種の生態系保護実行委員会

- ・ 東ノ池を美しくする会（代表会長）－梶野 誠
- ・ 郷前公園愛護会（代表会長）－梶野 茂
- ・ 桶狭間学区町内会及び学区青パトロール隊員

時期

平成 27 年 11 月 7 日（土）

9:00 ～ 12:00

場所

緑区桶狭間 3002 番地（東ノ池）

活動内容

昔は農業用のため池、利水施設として活躍していた池ですが、近年は都市計画で住宅が増えてきて、農業の役目がうすれて、地域の防災・治水用として、役割を変えつつあります。

昔は頻繁に『池干し』が行われましたが、現在は市行政の管轄になり、ほとんど行われません（約 30 年以上）。

そこで、今回町内の協力のもと、池の中に在来種、外来種の数・種類がどの位、の割合で生息しているか、また生態系を崩す、外来種の駆除を目的に、なごや生物多様性保全活動協議会と緑土木事務所の御協力で調査、実施することになりました。



朝の挨拶、調査方法の説明



1回目の調査（東南側）



捕獲した生物の仕分け



2回目の調査（西側）

助成金事業

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や新たに取り組みされる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然保全活動の創出を応援しています。

初年度である平成27年度には、5件の採択がありました。

平成27年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
なごやの生き物調査の会	才井戸流のトンボ・ゾウムシと植物を調べよう!
名古屋昆虫同好会	昆虫採集を通して環境保全へ関わる後継者の育成
中志段味の自然を次世代に伝える会	才井戸流の自然保護
かんでら monzen亭	みんなのカメ池国勢調査
ガールスカウト愛知県第25団	熱田神宮ガールスカウト活動

- 「昆虫採集を通して環境保全へ関わる後継者の育成」活動の様子



第1回昆虫教室(2015年6月13日午後)
なごや生物多様性センターで、採集した各種昆虫類の標本作りに励む受講者。

- 「才井戸流の自然保護」活動の様子



昼間の調査の様子
小川の泥を採取し、バットの中で幼虫調査。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

- 目的
自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え、広めることを目的とする。
- 活動
 - ・ 観察会
 - ・ 調査・保全・保護活動
 - ・ ガイドブック・冊子などの企画・執筆
 - ・ 各関係機関とのパートナーシップ事業
 - なごや生物多様性センター、生涯学習センター 他
 - ・ 他団体との情報交換など



▲吸蜜中のアサギマダラ

平成 27 年度の活動について

- ・プロジェクト「みんなで作ろう 相生の森公園」全 5 回講座実施
・名古屋市への提言：プロジェクト「みんなで作ろう 相生の森公園」➡ 成果物を届ける
- 定例観察会：毎月第 4 日曜（ただし 10 月は第 3 土曜）に、四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施
- 上記以外の特別活動
 - 5/13(水) 講座「相生山緑地におけるヒメボタル保全活動について」 於：なごや生物多様性センター
 - 5/15(金) 天白もり・フォーラム：「そっと観察しよう～ヒメボタル」
 - 10/ 3(土) なごや生物多様性保全活動協議会主催「カマキリー斉調査」 於：相生山緑地オアシスの森
 - 10/ 4(日) 同上
 - 10/11(土) 旅をするチョウ “アサギマダラのマーキングをしよう” 於：東山植物園
 - 10/25(日) 天白区主催：白区民まつりにブース出展（クラブト、パネル展示）
 - 11/27(金) 天白生涯学習センター主催：相生山緑地の秋の魅力
 - 11/ 1(日) なごや生物多様性センターまつり：ブース出展（パネル展示）

団体の情報

主な活動場所 相生山緑地オアシスの森（天白区）

相生山緑地自然観察会

TEL/FAX：(052) 822-7460 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp

ウェブサイト：<http://ngyaioi.blogspot.jp/>

■ 例会の予定：毎月第 4 日曜（10 月のみ第 3 土曜）

愛知守山自然の会

団体の目的・主な活動内容

平成 16 年から守山区の小幡緑地を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に ①一般参加者向けの自然観察会の実施 ②せせらぎ湿地の保全・保護 ③マメナシなどの希少生物の保全 ④研修や各種イベントの参加など、楽しみながら、活動をしているボランティア団体です。全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全に参加しています。

日常的には、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごや森づくりパートナーシップ連絡会、なごや生物多様性保全活動協議会の行事に積極的に参加しています。



▲マメナシ自生地保全

平成 27 年度の活動について

- ・ 4 月 三重県・県内のマメナシの調査ツアーを実施しました。
 - ・ 5 月 地元の要請を受け、田原市七つ山にあるナガボナツハゼの保全にいきました。
 - ・ 5～7 月 守山生涯学習センターのマイスター講座を担当し、5 人の方が入会されました。
 - ・ 10 月 田原市黒河湿地群落他で行われた湿地サミットに、会として参加しました。
- 8 月から守山区内の「マメナシのある風景」事業活動で守山土木事務所・守山区まちづくり推進室などと連携し、蛭池の地元での愛護会結成を目指して 7 回の会合を持ち、2 月には金城学院大学でのマメナシの講演会を企画しました。
3 年間にわたってせせらぎ湿地で行われた木道工事は 3 月で完成。トンボ池は引き続いて修復します。

団体の情報

主な活動場所 小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会

TEL/FAX：(052) 711-3087 E-mail：noriyoshibob@yahoo.co.jp

■ 例会の予定

【自然観察会】毎月第 2 土曜日 10：00～11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前 9：45 集合）

【保全活動日】毎月第 2 水曜日・第 4 日曜日 10：00～12：00（小幡緑地本園内（せせらぎ湿地・マメナシ自生地））

雨池ホタルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成10年5月末、会員の1人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人々が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。



▲さくら道の保全活動

平成27年度の活動について

- ・毎月第1土曜日午後8時から1時間ほど、大森交番前に集まって、地域の防犯パトロールを行いました。
- ・毎月第2及び第4土曜日は「雨池公園愛護会」として、雨池周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。平成28年度の特例活動として、8月22日（土）に総勢86名の参加者で「夏だ！元気にあそぼう」（魚釣り、ザリガニ釣り、スイカ割りなど）と12月5日（土）に「さくら並木保全講習会」（守山土木事務所の応援を受けて、樹木匠の板倉賢一さんによる実演講習）を行いました。後日、講習会でのお話を受けて、定例活動日に桜の根元から少し離れた場所にダブルショベルで多数の穴を掘って、有機肥料を施しました。子供たちを楽しんでもらえる雨池公園を目指しています。
- ・5月末にホタル観察会を行い、100名ほどの参加者がありました。地元有志による楽器演奏などもあり、大人気でした。その後、雨池周辺でのヒメボタルの観察を行いました。
- ・3月には大森北小学校PTAと共催で「もちつき大会」を行いました。

団体の情報

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会

TEL：(052) 792-0022 E-mail：okamura@sda.nagoya-cu.ac.jp

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

荒池ふるさとクラブ

団体の目的・主な活動内容

荒池ふるさとクラブは、平成16年から荒池緑地で保全活動を行っています。

活動目的は、名古屋市と地域との協働で策定された「荒池なごやかファーム構想」の趣旨に賛同し、荒池緑地を次世代に引き継ぎ、生物多様性を保全し、自然との共生を目指します。活動内容は、自然観察（植物、昆虫、野鳥など）、緑地の整備、水田／畑の耕作、果樹の栽培、間伐竹の炭焼き、間伐材を利用したクラフト、各種イベントへの参加、近隣小学校の総合学習の協力などを行っています。

活動日は、第1土曜日は運営委員会、定例活動日は第2土曜日・第3日曜日・第4土曜日です。



▲田植え

平成27年度の活動について

緑地の整備（竹林、雑木林）と水田での稲作を中心に、里山の風景の復元を目指した活動を行いました。

主な月別活動は、4月に植物観察会、5月に田植え、6月と1月に天白土木事務所と農業センターと共催で、筈と果樹の収穫体験を一般募集した市民と協働で実施。7月にはなごや生物多様性保全活動協議会の協力を得て、水田の稲作関係では、8月に案山子づくり、9月に天白区役所の天白自然体験スタンプラリー参加者と稲刈りを、10月に脱穀と糶摺り、12月に収穫祭で餅つき大会を開催。11月は5月に植え付けしたサツマイモの芋掘りと新たな活動エリアの二つ池エリアの整備、12月に正月に向けたミニ門松としめ縄を作成。1月には緑地内に設置した巣箱の整備と荒池の冬鳥観察会の開催。2月と3月には間伐竹で炭焼きを実施。10月に天白区民まつり、11月に農業センターまつりのイベントに竹細工で参加。年間を通じ竹林と雑木林の整備は主体活動として実施。

団体の情報

主な活動場所 荒池緑地

荒池ふるさとクラブ（代表 熊岡篤史）

TEL：(052) 832-4415 FAX：(052) 832-4418 E-mail：atushi-k0712@docomo.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.geocities.jp/araikefurusato/> 《[荒池ふるさとクラブ] で検索》

■例会の予定：第1土曜日 運営委員会、第2土曜日 定例活動日、第3日曜日 サンデー定例活動日、第4土曜日 プラスワン定例活動日

活動時間：10:00～15:00 / 集合場所：農業センター指導館ロビー

伊勢・三河湾流域ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

当会が設立時に訴えたことは、「伊勢・三河湾の流域」という生態的まとまり(Bioregion)の価値が認識されず、省庁割、地域割の思考と施策でバラバラに管理され、痛めつけられてきたことを指摘できるのは市民団体ではないか。それに気づいた私たちが率先してささやかながらアクションを起こそうという呼びかけでした。当時掲げたミッションは、①流域や山・川・里・海の連関の思考を重視する、②すでに行われている市民活動を尊重し、つなぎ役になる、③市民参加・研究者参加型の流域調査手法を鍛えよう、④将来、産・官・学・民の協働的な事業・活動展開を望む、といったものでした。

現在の伊勢・三河湾流域の現状を直視するにつれ、われわれが重視してきた「流域の視点」「批判的提言」「市民団体間の連携」「調査をベースに置く」「国連の目標との連動」の重要性はますます高まっていると感じています。



平成 27 年度の活動について

- 山川里海セミナー：2015 年度の山川里海セミナーは 8 月 2 日に生物多様性センターで開催した（「若者にみてほしい「この十年 伊勢・三河湾流域で おこっていたこと」学校の授業では聴けない 現場でおきていたハナシ 実践者たちの対話 ワークショップ」(参加者 32 名)と 10 月 3・4 日に開催した「豊川の清流と環境をみるミニツアー」で豊川と設楽ダム予定地をバスで巡りました。1 月 31 日には四日市で「伊勢湾流域圏の再生シンポジウム」を 5 団体が共催しました。参加者は、130 名で今後の展開を期待させる集会となりました。
- 「味わって知る 私たちの海」開催：2006 年より継続的に開催しているこの講座を 4 回開催しました。三河湾産のチリメンモンスター入手が可能になり、南知多町大井で 1 回、なごや生物多様性センターサマーセミナーで 1 回、その他、名古屋環境大学エコパルなどでワークショップを数回開催しました。
- 当会は昨年 1 月で 10 周年を迎えています。この 10 年を振り返り、私たちの経験を次代に継承していくために「伊勢・三河湾流域ネットワーク 10 年の歩み」を作成しました。市民活動に多少でも関心のある人に対して、わかりやすい明快な文章を心がけ、この 10 年の経験が次の新たな歩みを刺激できること願って作成しました。また、当会に関係する多様な方々のこだわり、生き様、ユニークな活動ぶり、当会とのかかわりについて味わい深い文章が綴られています。より多くの方に読んでいただけるよう配布価格としては（印刷実費より大幅に安く）300 円とさせていただきました。読んでいただける方は事務局までご連絡ください。

団体の情報

主な活動場所 伊勢・三河湾流域圏

伊勢・三河湾流域ネットワーク

E-mail : office@isemikawa.net ウェブサイト : <http://www.isemikawa.net/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動をする前は、毎月 1 回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の自然観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出ていた事と、水がしみ出しているところにこの地方固有の植物シラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は 2000 年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得る話し合いを行いました。2001 年 9 月に県から許可が下り、2002 年から活動に入りました。

平成 27 年度の活動について

現在の活動内容（右表）は、毎月第二日曜日 9 時から 11 時 30 分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きがメインです。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。その他、夏場には市民参加の「トンボを守ろう！ザリガニ釣り大会」を実施して、駆除を通じての外来種問題の PR や、有志による自然観察会も行っています。



【平成 27 年度の活動】

1 月	ひょうたん池の泥上げ
2 月	コモウセンゴケの丘の刈り込みと落ち葉掻き
3 月	湿地上部・誘導路の草刈り
4 月	冬鳥の餌場の草刈り
5 月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6 月	中央湿地の草刈り
7 月	ひょうたん池・導水路周囲の草刈り
8 月	池のアシ刈り
9 月	トンボを守ろう！ザリガニ釣り大会(一般参加)
10 月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11 月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12 月	中央池の泥上げ

団体の情報

主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会 (代表 大主順一)

TEL : (052) 413-4435 E-mail : yoka1115@violet.plala.or.jp

■例会の予定：毎月第二日曜日 9 : 00 ~ 11 : 30

かんでらmonzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」

団体の目的・主な活動内容

笠寺まちづくり団体「かんでら monzen 亭」の活動の一つ。笠寺観音商店街屋上にて西洋ミツバチの飼育を行い、商店街活性化の他、ミツバチの育つ安全な環境づくりをテーマに、無農薬の花や野菜づくりの事業も推進する取り組み。平成 25 年より正式にプロジェクトを開始、ミツバチの飼育応援団と花づくり応援団を構成し、ミツバチを通じた環境教育講座を執り行い地域活性化事業を継続中。

平成 27 年度の活動について

季節に準じたミツバチ育ての内検作業とともに、採蜜や蜜ろう採取など商店街活性化の地域資源として活用の計画に基づき、みつばち食堂の無農薬畑で育てたらっきよを、はちみつ漬けにした新商品も作成、28 年春に販売開始。環境づくりにおいては、小学校トワイライトとリハビリテーション病院の 2 会場にて、「ミツバチの不思議」連続 3 回講座を実施、ミツバチの環境における役割や共存などをテーマにワークショップを行った。また、図書館主催の蜜ろうキャンドルづくりイベントや地域ものづくりイベント、名古屋市商店街組合イベントにも参加、地域の人々との交流を深めた。



団体の情報

主な活動場所 笠寺観音商店街界隈を中心とした地域

かんでら monzen 亭「笠寺ミツバチプロジェクト」

TEL : (052) 822-0885 FAX : (052) 822-5466 E-mail : kasadera@minamix.net

ウェブサイト : <http://machiwiki.sakura.ne.jp/>

■例会の予定 : かんでら monzen 亭 毎月第 2 土曜日 9 時～ 11 時

ミツバチプロジェクト 毎週 1～2 回 (季節に準じて)、花づくり第三土曜日 10 時半～ 11 時半

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

◆目的

人間と自然のよりよい関係が模索されている中、雑木林（里山林）を一つのモデルとして取り上げ、フィールドをめぐるながらその役割を解明し、今日的価値を探究することによって、両者の新たな共生関係を見出す。そして、かつての役割を失い、放置されつつある雑木林の新たな活用法を探る。

◆主な活動内容

・オープンセミナー ・研究会 ・フィールドワーク ・研修ツアー ・協働参画活動など

◆これまでの主な活動テーマ

・子どもと雑木林（雑木林の教育力・木育） ・アートと雑木林（雑木林の創造力・グリーンウッドワーク） ・公園空間としての雑木林 ・ヒーリング空間としての雑木林（雑木林の治癒力） ・住民参加・協働の場としての雑木林 ・里山保全活動と市民講座 ・里山型公園緑地のマネージメント ・里山林と木質バイオマスエネルギー ・里山林の水循環・水源涵養機能・雨水利用 など。

平成 27 年度の活動について

◆年間テーマ 里山林と水循環・水源涵養機能・雨水利用

●オープンセミナー ・2015/2/15 第 1 回オープンセミナー：森の水循環と里山の生物多様性保全活動

●研修ツアー ・2015/4/11～12 武蔵野の水みち野川を訪ねて

・2015/6/20 森林の水環境・東京大学生態水文学研究所赤津研究林を訪ねて

●参画活動 ・第 8 回雨水ネットワーク会議全国大会 2015in 愛知



団体の情報

主な活動場所 特定の活動場所は持たない

雑木林研究会

TEL/FAX : (052) 262-3181 E-mail : k-mayumi@aurora.ocn.ne.jp

■例会の予定 : 毎月第 1 月曜日 午後 7 時より

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類に関わる採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：140名・全国(2016.2月現在)
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年3回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日(建国記念日)
- 各地の観察会：三重・中部の合同合宿 7月下旬

平成27年度の活動について

(事業年度：2月～翌年3月)

○総会・研究発表会

平成28年2月11日：ウイルあいち セミナールーム6、40名参加

特別講演「日本産ハエトリグモ全種制覇への挑戦」東京蜘蛛談話会 須黒達巳さん

○主な活動

・各地観察会(全4回)

①5月10日：小幡緑地公園 21名参加

②6月20日：トヨタの森 19名参加

③9月6日：稲永公園 7名参加

④10月4日：大高緑地公園 21名参加

・三重・中部蜘蛛合同合宿 7月25/26日 岐阜県恵那市毛呂窪 笠置山山麓 13名参加

・サマースクール&夏休み子ども観察会：7月27日：八事興正寺・八事山散策路

・なごや生物多様性センターまつり：ブース展示：11月1日



▲総会・研究発表会 集合写真

団体の情報

主な活動場所 特定の活動場所を持たない

中部蜘蛛懇談会

TEL/FAX：(052) 522-1920 (柴田方) E-mail：machinami@hotmail.co.jp

ウェブサイト：http://chumo.web.fc2.com

■例会の予定：不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが目的です。活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。他との協働も積極的に行います。

平成27年度の活動について

5月～6月 協議会「オオキンケイギク部会の山崎川駆除活動」に携わりました。延べ214人でゴミ袋93袋分のオオキンケイギクを駆除できました。

4月、6月、9月に外来昆虫採取会を開催しました。西区新川でムシクロツバメシジミ、北区洗堰でラミーカミキリなど、瑞穂公園でヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシなどを採取し、子供たちに外来昆虫の生態系への侵略性を実感してもらいました。

9月は「環境デーインなごや」に「アカミミガメ親子の比較展示」「外来種カード釣りゲーム」「外来種立体パズル」で出展しました。大人から子供まで外来種の問題を考えてもらえました。

10月は朝長昌樹先生の講師で「セアカゴケグモ・マダニの勉強会」をモリコロパークで行いました。野外活動において一番死亡率が高いのがマダニのSFTS感染かもしれません。感染予防や対応について学びました。

12月は愛知県からの要請で環境行政担当者を対象とした外来種研修会にオオキンケイギク対策の講師として講義をしてきました。各行政担当者に特定外来種オオキンケイギクを駆除するための主体的取り組みを要請しました。

1月は「トウネズミモチの駆除実験」を行いました。一般的に駆除しにくい外来樹木と言われていますが、除草剤などの薬品を使わずに、切り倒した切口に食塩を盛るだけで枯れる駆除方法の検証中です。



2015/10/25

団体の情報

主な活動場所 その都度検討

なごや外来種を考える会

TEL：090-8867-9725 FAX：(0561) 62-5510 E-mail：nonaka@kato-ken.co.jp

ウェブサイト：http://nagorai.org/ 活動ブログ：http://blog.goo.ne.jp/nagorai

■例会の予定：原則毎月の第1日曜日

「なごや環境大学」実行委員会

団体の目的・主な活動内容

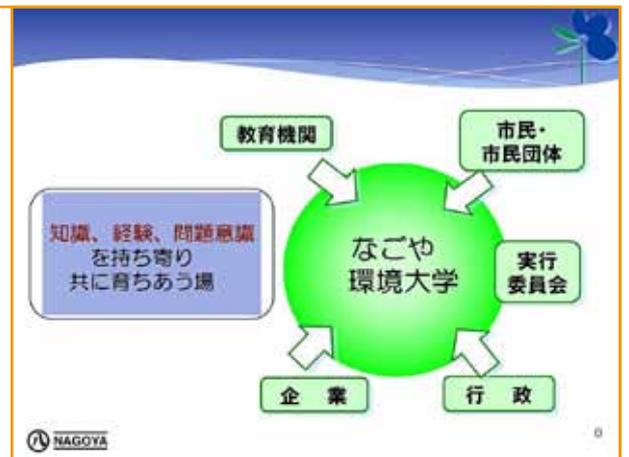
なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、学校・大学、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」「人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ(共育)」ことを目指しています。

2005年3月に開校し、10周年を迎えました。

平成27年度の活動について

平成27年3月に開学10周年を迎えたなごや環境大学では、平成27年度はこれまで培ってきた人とのつながりや経験、ノウハウを活かして、10周年記念事業を年間を通じて実施し、より多くの方になごや環境大学を知っていただく事業を展開しました。

- ・【7月11日、8月29日】AQUA SOCIAL FES !! 2015(2回128人)
- ・【9月19日】環境デーなごや2015 中央行事(650人)
- ・【10月11日】環境報告会&ワークショップ(287人)
- ・【1月10日】なごや環境大学10周年記念コンサート(1100人)
- ・【1月16日】なごや環境大学10周年記念シンポジウム(350人)
- ・【1月16日】なごや環境大学10周年記念シンポジウムレセプション(133人)
- ・【3月12日】リソースマッチング事業



団体の情報

主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会

TEL/FAX : (052) 223-1223 E-mail : jimun@n-kd.jp

ウェブサイト : <http://www.n-kd.jp>

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の半分以上を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて、様々な進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ること、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国の約230名の虫が好きな人が入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報(データ・生態等)が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

平成27年度の活動について

- ・「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行。
- ・1/11 年次総会の開催
- ・2/14、3/14、4/11、5/9、6/13、7/11、8/8、9/12、11/14、12/12 月例会
- ・10/18 虫供養(桃巖寺)
- ・4月ギフチョウ観察会 in 岐阜県中津川市
- ・7月採集会 in 岐阜県蛭ヶ野・石徹白

団体の情報

名古屋昆虫同好会(会長 間野隆裕)

TEL : 090-9924-3518 FAX : (052) 442-1503 E-mail : manotaka@muj.biglobe.ne.jp (連絡先全て会長宛)

ウェブサイト : <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~jpcat/meikon/>

■例会の予定 : 毎月1回、名古屋市千種区吹上の中小企業振興会館(通称吹上ホールのある会館)4階で、情報交換や名前調べ会などの例会を実施しています。



▲次世代育成採集会



▲シンポジウム

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会(正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員((財)日本自然保護協会による認定資格者)によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。



▲ふるさと親子自然観察会(荒池緑地)

平成27年度の活動について

- ① 市内10箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチャア・フィーリングなどの特色ある自然観察会を実施しました。
- ② 子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を4回実施しました。
- ③ 名古屋市環境局環境学習センターと協働したふるさと親子自然観察会を5月に、エコパルワークショップを7月と8月に実施しました。
- ④ 8月になごや環境大学が事務局となって実施された名古屋気温測定調査に協力しました。
- ⑤ 名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する身近な自然体験会(6月)を実施し、環境デー中央行事(9月)にブース出展しました。
- ⑥ 名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業を実施しました。
- ⑦ 10月になごや生物多様性保全協議会が中心となって実施されたカマキリ調査に協力しました。
- ⑧ 会員のスキルアップを目的とした研修会を3回実施しました。
- ⑨ 愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑩ ホームページなどを通じて情報発信しました。

団体の情報

主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL : (052) 782-2663 FAX : (052) 781-8127 E-mail : takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト : <http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定 : 例会は実施していない。役員会は偶数月の第3日曜日

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人・氏と交流のあった小学校教員と教え子や親御さん方等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。

ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。

歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。



▲5月17日 昼間のホタル観察シュミレーション

平成27年度の活動について

- ホタルの時期(5・6月) 毎晩23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々のご案内をしました。22時～外堀隣接の護国神社境内でお話し会(屋外のスライド上映や弾き語り等)を実施しました。
- 今年度のホタル成虫発生時期は、今まで観察してきた中で最も早く、予想外でした。例年は、5月の連休後から増えていき5月中旬～末にピークを迎えます。今年度は、連休前からどんどん増え、5月末のお話し会にはほとんど終息してしまいました。それでもお話し会には300人の方が集まってくださって温かい雰囲気でした。感謝です。
- 年々、深夜観察に来る方々の数が増えていることが嬉しいことであり、課題でもあります。生物多様性保全活動協議会から、課題対策のご支援をいただき、昼間に現地を観察する会を設けたり、通り道をコーンで作ったりしました。
- 「外堀を知ろう!体験会」では、市の方と共に、外堀の自然観察をしたり、清掃を行ったりしました。
- 調査として、ヒメボタルの生活環境を調べるために、地中温度計の設置をしました。年間を通して計測中です。

団体の情報

主な活動場所 名古屋城外堀(外堀通沿)

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

E-mail : kazuyo29@gmail.com (事務局長 安田和代) ウェブサイト : <http://sotobori.sp.land.to/>

■例会の予定 : 不定期(ウェブサイトを確かして下さい)

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科 附属生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

リンネの生誕 300 年 (2007 年)、ダーウィンの生誕 200 年 (2009 年)、杉浦昌弘 (名古屋市立大学システム自然科学) の文化功労賞授与 (2009 年) を受けて、名古屋市立大学では、2009 年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、全生物種について特定の遺伝子の塩基配列をカタログ化し、生きもの の名前を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという取り組み (DNA バーコード計画) に呼応して、当研究センターでは、東海地方の生物を手始めに、様々な生物群の DNA データを収集しています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

平成 27 年度の活動について

多方面の方々のご協力をいただきながら、DNA バーコードデータベース作成のために、標本の収集と分析に力を入れてきました。カイ類、植物、コメツキムシ、ゾウムシなどの収集と DNA 分析の他、今年度は、とくに矢田・庄内川に生息するコイ、アユ、ヤマトシジミなどの生き物の遺伝子の多様性について分析し、なごやにおける地域個体群の遺伝的多様性について、外来種、放流などの影響についての情報が得られつつあります。

団体の情報

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター

TEL : (052) 872-5851 FAX : (052) 872-5857 E-mail : biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp

ウェブサイト : <http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/>

標本のDNA塩基配列決定

生物多様性研究センターでは、収集された試料を、動物組織の場合はアルコール浸漬標本として4℃で、植物組織標本と抽出したDNAは-30℃冷凍庫に保存しています。もとの生物標本の保存も同様に大切に。



試料収集と保存 → DNA抽出 → PCRによるDNA増幅 → 塩基配列分析



▲DNAバーコードを決める手順と実際に実験を行なっているところ

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

平成 27 年度の活動について

- 平成 27 年度の加盟団体数 森づくりを楽しむ 29 団体が加盟
 - ・定例会の開催：偶数月 第 2 金曜日 18:30 ~ 定例会の開催
 - 奇数月 第 2 金曜日 18:30 ~ 幹事会の開催
 - ・フィールド訪問の開催
 - 加盟団体の活動日に訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で現地訪問が 2 回行われました。
 - (H27 年 11 月 08 日) 大高緑地湿地の会・花水緑の会・大高竹の会
 - (H27 年 12 月 03 日) 天白公園整備クラブ
 - ・スキルアップ研修会の開催
 - (H28 年 3 月 27 日)
 - 緑化センター講習室において
 - 「森づくり活動と植物種の移動について」
 - 講師名工大保全生態学准教授・増田理子

団体の情報

主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

TEL/FAX : (052) 262-3181 (事務局)

ウェブサイト : <http://www.nga.or.jp/partnership/introduction.html>

《[なごやの森づくりパートナーシップ連絡会] で検索》

■例会の予定：偶数月 第 2 金曜日 18:30 ~ 定例会の開催、奇数月 第 2 金曜日 18:30 ~ 幹事会の開催



▲フィールド訪問の様子

(特非) なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。

いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。

雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、里山くらし体験 など。

平成27年度の活動について

毎年の活動は、雑木林・湿地・竹林の保全活動と生物多様性保全活動協議会の水生植物部会と東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全、猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾い WSも日本野鳥の会愛知県支部、生物多様性保全活動協議会と協働で実施しました 湿地の調査と両生類の産卵地の保全。

活動日数 約300日/年、活動人数約4,810人



団体の情報

主な活動場所 なごや東山の森

(特非) なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX: (052) 781-2595 E-mail: takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp

ウェブサイト: <http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>

■例会の予定

【定例森づくり】活動参加費: 会員/無料・一般/200円

活動日時: 毎月第1日曜日、7月~9月は9:00~12:00、10月~6月は10:00~15:00

集合場所: 毎回異なります

活動場所: 奇数月/いのちの森・うるおいの森 (東山公園南部)

偶数月/くらしの森 (平和公園南部)

NPO法人 日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

農薬や化成肥料を使わず、生きものといっしょにお米や野菜をそだてています。

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となるよう奮闘・努力しております。又、地域の子育てNPO、介護団体、障がい者団体、大学や行政との連携・協同で、農がもたらす様々な効果、多面的活用をさぐっています。

平成27年度の活動について

- ①なごや生物多様性サマースクール2回
- ②夏休み小学生向け生きもの・野菜教室2回
- ③ハウス食品「食と農と環境の体験教室」5回
- ④生きもの観察コース(子ども生きもの調査隊)7回
- ⑤農業体験農園(指導付き農園)毎週土曜日(講義と実践)
- ⑥有機野菜の販売
(個人向けセット販売月2回、朝市月1回、随時イベント出店)
- ⑦マンション住民向け農体験講座4回
- ⑧就労支援のための職場体験受け入れ
- ⑨ダンボール生ゴミコンポスト講習会
- ⑩その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、イモ掘り、餅つきなど随時開催。

団体の情報

主な活動場所 日進市本郷

NPO法人 日進野菜塾

TEL: 090-5443-1518 FAX: (052) 934-7207 E-mail: info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト: <http://n-yasaijuku.com/>

■例会の予定: 日曜日 9:00~12:00



▲田んぼの中に入って生きものさがし



▲畑でいろいろな作物の姿を知る

日本カメ自然誌研究会

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然(野生)のカメと人との良い関係を保つためにはどうすればよいのかをみんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごや生物多様性保全活動協議会が発行した「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。



▲なごや生物多様性サマースクールの様子

平成27年度の活動について

- ・なごや生物多様性保全活動協議会の動物調査と保全対策部会の一員として、春から秋まで市内でカメの生態調査と外来ガメの駆除を行ないました。
- ・7月24日には、なごや生物多様性保全活動協議会主催の「なごや生物多様性サマースクール2015」の「カメを中心に水辺環境を観察しよう」で、植田川でのカメや魚の採集の指導や室内での学習に協力しました。
- ・7月25日には、なごや生物多様性保全活動協議会のメンバーでもある山崎川グリーンマップさんが主催された生き物観察会で、山崎川での水生動物の採集や学習に協力しました。
- ・7月29日には、アカミミガメ対策の立案のために名古屋市を訪れた環境副大臣の案内役を務めました。
- ・2月13日～14日に静岡大学で「第17回日本カメ会議」を開催しました。山崎川グリーンマップさんにも協力していただきました。
- ・他地域ではありますが、安城市本證寺の堀において5月～10月の初旬にカメなどの水生動物の生態調査と外来種駆除を、延べ24日行なっています。

団体の情報

主な活動場所 その都度検討

日本カメ自然誌研究会

住所：〒471-8532 豊田市大池町汐取1 愛知学泉大学矢部研究室室内（事務局）

TEL/FAX：(0565) 35-8373 E-mail：kame@gakusen.ac.jp

ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/chelonian-1998/

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

日本野鳥の会愛知県支部

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は1934年（昭和9年）に創設され、全国に90の支部があります。愛知県支部は本部創設の4年後1938年に中京支部として誕生し今年で77年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらう普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

そのうち普及活動の一つ、探鳥会是一般の方に野鳥観察の楽しさを知ってもらうため、会員以外の方も参加できます。また、参加の予約や費用も必要ありませんのでお気軽にご参加下さい。探鳥会の詳細はHP又は毎週中日新聞、朝日新聞に掲載しています。詳しくは事務所（末尾参照）へ問い合わせして下さい。

平成27年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

1) 普及活動

探鳥会：年間140回以上 参加者はおよそ2600名

愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い

2) 保護・調査研究活動

愛知県定点調査（県内22箇所、40年以上継続中）、カワウ調査 8箇所、サギ調査（東名阪弥富・蟹江 インターチェンジ）、コアジサシ調査 県内全域、木曾岬干拓地猛禽類調査



▲探鳥会の様子

団体の情報

主な活動場所 各地

日本野鳥の会愛知県支部

住所：〒462-0844 名古屋市北区清水五丁目10-8 グリーンフェロー3A（日本野鳥の会愛知県支部事務所）

TEL/FAX：(052) 912-9531 E-mail：front@wbsj-aichi.org ウェブサイト：http://wbsj-aichi.org

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内21か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

平成27年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき（3月末から4月）マリーゴールドなど。ポット移植（5月）
- ・初夏の花苗植え込み（6月）街路樹植え込み・公園花壇など
- ・秋の種まき（9月）パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10月）
- ・秋冬の花苗植え込み（11・12月）

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植え込み・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり。

【イベントなどの参加】

あいち都市緑化フェア・みどりっ子体験フェスタ・なごやマイスター講座・身近な自然体験会・緑区クリーンキャンペーン・扇川緑道交流会・名古屋気温測定調査 2015・なごや生きもの一斉調査 2015・緑区区民まつり・上下水道交流イベント「エコ市」・ボランティアフェスティバル in みどり・みどサポフェスティバル



団体の情報

花水緑の会

TEL: (052)625-3878 FAX: (052)623-8191 (緑区区役所まちづくり推進室) E-mail: a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定：不定期

主な活動場所 こもれび広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園・扇川緑道・白土中央公園坊主山公園・上ノ山公園・滝ノ水緑地公園・清水山・鳴子中央公園・なるばーく・水広下・梨の木公園・左京山

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

平成27年度の活動について

- ・主催事業
 - 「干潟の学校」
 - 「ガタレンジャー養成講座」
 - 「ガタレンジャー Jr.」
- 環境省・名古屋市等との共催事業合計 32回（748名）
- ・各種団体・学校等からの依頼による体感学習合計 26回（1098名）
- ・環境イベント等への出展 8回
- ・環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の運営等



団体の情報

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

TEL: 080-5157-2002 E-mail: info@fujimae.org

ウェブサイト: <http://www.fujimae.org>

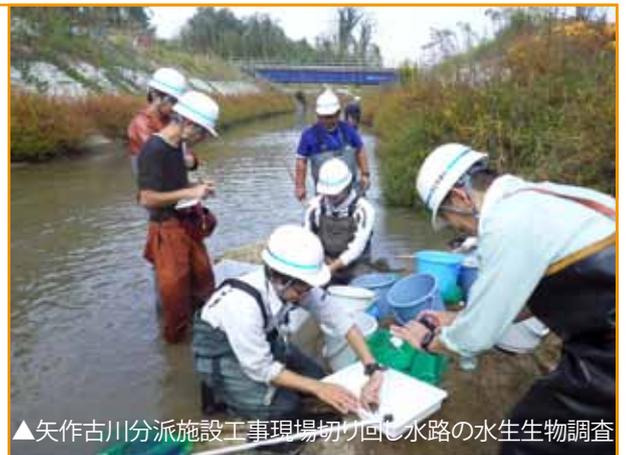
■例会の予定：理事会毎月1回（不定期）・総会年1回

主な活動場所 藤前干潟周辺

三河淡水生物ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供も行っています。



▲矢作古川分派施設工事現場切り回し水路の水生生物調査

平成27年度の活動について

矢作古川分派施設建設に伴い、工事開始前の2012年には矢作古川の該当区域における水生生物調査、2014年6月には工事区間のかいぼり水生生物の救出と調査を行い、碧南海浜水族館の年報に投稿しました。

浅香智也・地村佳純・向井貴彦・西浩孝・白金晶子・鳥居亮一・西原均（2015）矢作古川分派施設工事の水路付け替えにともなう魚類などの水生生物の救出と調査。碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報，27：27-32
2015年10月には、工事現場の切り回し水路において国土交通省豊橋河川事務所との共同で水生生物調査を行いました。

また、「レッドリストあいち2015」、「レッドデータブックなごや2015」で執筆および協力をしました。

団体の情報

主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail：fw-life@katch.ne.jp

ウェブサイト：http://www.geocities.jp/fw_life/

名東自然観察会

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として自然観察会と田んぼの体験講座を行い、参加者が楽しんで活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」自然との対話を楽しみましょう。

平成27年度の活動について

- ・名古屋市名東区猪高緑地において
毎月第2土曜日9:30～
定例自然観察会を開催しました。年間参加者数350名
- ・猪高緑地内に復元された棚田において
5月から11月まで
田んぼ体験教室を開催しました。年間参加者数498名



▲自然観察会の様子



▲田んぼ代掻き体験の様子

団体の情報

主な活動場所 観察会／名古屋市名東区猪高緑地
田んぼ体験／いたかの棚田

名東自然観察会

TEL/FAX：(052) 704-1196 E-mail：hori-tamori@nifty.com

ウェブサイト：http://homepage3.nifty.com/horitamori/ 《[名東自然観察会]で検索》

■例会の予定：活動日／毎月第2土曜日9:30～、名東生涯学習センター前集合

田んぼ体験については、上記あて問い合わせください。または、なごや環境大学共育講座でも行いますのでそちらで確認ください。

もりづくり会議

団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してくために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。

もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

平成27年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササの除伐、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、モミジ、アベマキ等の苗作りと植樹、生きもの観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のカマキリ編(2015年)や陸貝編(2012年)などにも参加してきました。

2016年からは、サイドワークとして植物を観察しながらのトレッキングもはじめました。現在、犬山取水場から、名古屋市千種区にある鍋屋上野浄水場に導水するルートに整備された緑道を、5回に分けて歩いています。

団体の情報

もりづくり会議

E-mail : morikaigi66@gmail.com

■例会の予定：月1回、定例会議と定例活動



守山リス研究会

団体の目的・主な活動内容

1990年から名古屋市東谷山を中心として生息する野生のリス・ムササビをはじめ哺乳動物とその生息地の調査・保全を目指し(動物たちの都市計画づくり)、名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとの宝」として思い、守っていく「二つのまちづくり」を統一していく活動を目指しています。宝には地域の歴史、文化を含めた保全を住民、学校、農家、関係団体と協同で実施しています。

- (1) 生息する野生のリスをはじめとする哺乳動物とその生息地の調査・保全、
- (2) そのために名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとの宝」として思い、守っていくまちづくりを進め、
- (3) 地質や自然の調査保全に獣害、外来種などの対策や神社・古墳の歴史、文化を含めて調査学習し、全てを記録に残して関係者に報告しています。

平成27年度の活動について

- (1) 複数の自動撮影装置を1年中森に設置して動物のフン調査・テレメ調査の組み合わせで、繁殖・棲み分け行動を調査(ニホンリス、ムササビ、ニホンイタチ、ニホンキツネ、ニホンテン、ニホンカモシカ、アカネズミ、イノシシ、カイネコなど)
- (2) なごや環境大学共生講座、環境デーなごや、東海シニア大学講座、生涯教育センター講座、緑化フェア出展、ぼらマッチ・ボラちゃり活動、名古屋市科学館、地球子ども村中国人団体へのワークショップ活動やリス捕獲・テレメ調査紹介
- (3) 地域との連携として農家と獣害調査対策(イノシシ、アライグマ、ハクビシン、キツネ)の実施、神社との連携で参道改修、植樹、建設したパイオトイレ毎日掃除、雨水400貯水・浄水化、ロケットストーブ研修と設置により地域の災害避難地としての整備を実施。
- (4) 調査をする中で小中学生の観察力強化・環境教育をするだけでなく、大学生5人のボランティア単位取得のため半年間インターン研修指導、を始め中部大、中京大、名城大の学生を多数受け入れてボランティア体験・環境教育を研修実施。



△なごや環境大学共生講座でリス捕獲時の体重計測

団体の情報

主な活動場所 東谷山・森林公園ゴルフ場・森林公園 岐阜金華山 軽井沢 嬬恋

守山リス研究会

TEL/FAX : (052) 795-2616 mobile : 090-9191-0087 E-mail : risuken@kzc.biglobe.ne.jp

ウェブサイト : <http://www.asahi-net.or.jp/~fb4m-isz/risuken> (現在新規立上げ中)

■例会の予定：定期調査／毎週土曜日 9:30 ~ 13:30

なごや環境大学共生講座 + リス捕獲調査：第3土曜日 9:30 ~ 14:00

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成(会則は翌年5月制定)されました。当時の日本は高度成長期の真っただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。活動41年です。

平成27年度の活動について

1. 庄内川水系における河川環境改善の試みと生物生息調査
○名城大学附属高校瀬への投網講習 ○庄内川へアユを呼び戻そうイベント ○天然アユ遡上調査 ○庄内川藤前干潟二枚貝調査 ○第5回庄内川水系天然アユ釣り大会 ○庄内川祭り第41回釣り大会
2. 志段味ビオトープ・才井戸流
○志段味ビオトープカワラナデシコの栽培 ○第5回ホテル観賞会 ○ホテル幼虫調査 ○志段味ビオトープで遊ぼうイベント
3. あいち森と緑環境活動・学習推進事業
○矢田川魚道の生き物調査・環境整備活動 ○矢田川で魚を捕ろうイベント ○身近な水辺再生と川の健康診断 ○矢田川の源流を訪ねよう
4. その他
○名古屋市委託の庄内川・矢田川・才井戸流の水質検査 ○27年度活動報告書の発行



団体の情報

主な活動場所 庄内川水系一庄内川・矢田川

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL : (052) 794-3876 FAX : (052) 796-2344 E-mail : cs6ibbvr@na.commufa.jp

ウェブサイト : <http://blog.canpan.info/kireinisurukai>

■例会の予定 : 不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

山崎川の在来種保護が活動の基となっています。そのために外来種の防除、地域の人たちを巻き込むため、理解を促すために生き物観察会や昔の様子の聞き取り調査を行っています。

平成27年度の活動について

- ①島型カメラ罠を使った外来種カメ捕獲
4月末～5月のほぼ1か月間、山下橋下流と落合橋下流の2カ所に、浮島型カメラ罠を設置。ほぼ一か月間でミシシippアカミガメの雄22匹、メス27匹を山崎川から取り除きました。昨年度に比べ、捕獲数が減っているのは、ミシシippアカミガメ防除の成果が上がり、数が減っていることの証だと思えます。
- ②6月6日
千種区大島町で、川原小学校の児童を対象にした生き物観察会を実施。参加者は、川原小学校児童28名をふくむ41名。瑞穂区の山崎川では見られないヒメタニシ1とめったに見ることがないシジミ数匹とヨシノボリ1を捕獲。
- ③夏休み生き物観察会、カメ教室 7月26日(土)
参加者は、おもに瑞穂区内の小学生50名を含む91名。クサガメ6、大型テナガエビ36、ギンブナ16、コイ稚魚5、その他アユ2、ヌマチチブ1、ゴクラクハゼ4、ボラ2、ハイイロゲンゴロウ2、ウキゴリ1、スミウキゴリ34、ヌマエビ60、ドジョウ12、シジミ1、ザリガニ5、ブルーギル小3、カダヤシ40、イシガメ♀2、クサガメ♀2♂4、スッポン♀2、アカミミ♀3、モクズガニ2・・・以上新捕。クサガメ♂1、クサガメ♀1・・・以上再捕。観察会で、はじめてアユ2匹を捕獲しました。
- ④昔の様子聞き取り
夏休みを中心として、随時行いました。2016年2月には、2009年より続けてきた山崎川の昔の様子の聞き取りの総集編を2000部完成させました。この活動は、2015年度日本自然保護大賞・入選となりました。2016年3月6日に名市大本部棟で聞き取りの発表会を開催しました。



▲夏休み山崎川生き物観察会



▲3月6日山崎川いま・むかしセミナーの様子

団体の情報

主な活動場所 山崎川 瑞穂区内

山崎川グリーンマップ

TEL/FAX : (052) 841-6048 E-mail : a-ohya@sc.starcat.ne.jp

ウェブサイト : <http://www1.m1.mediacat.ne.jp/a-ohya/>

■例会の予定 : 未定 (ウェブサイトを確認下さい)



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

平成27年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 平成28年3月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-700-7792 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>